奥州市地域公共交通計画

（第４次奥州市バス交通計画）

令和６年３月

奥州市

［ 目　次 ］

1. 計画の概要 5
1-1　計画策定の趣旨 5
1-2　計画の目的 5
1-3　計画の位置付け 6
1-4　計画の対象範囲 10
1-5　計画の区域 10
1-6　計画の期間と進め方 11
1-7　バス交通計画の振り返り 11
2. 地域の現況 15
2-1　地勢等 15
2-2　人口の推移 15
2-3　施設立地状況 18
2-4　市民の移動実態 19
3. 公共交通の現状等 23
3-1　公共交通の運行状況等 23
3-2　公共交通ネットワークの現状等 24
4. 市民意向等の把握 39
4-1　市民アンケート調査 39
4-2　高校生アンケート調査 45
4-3　バス利用実態調査 48
4-4　地区内交通利用者アンケート調査 51
5. 公共交通を取り巻く課題等 53
6. 計画の基本方針・基本目標 62
6-1　本市の公共交通が目指す将来像（基本方針） 62
6-2　公共交通の役割分担 63
6-3　公共交通ネットワークの将来像 64
6-4　基本目標 67
6-5　施策・事業の方向性 69
7. 目標達成のための施策・具体的な取組 70
8. 計画の推進体制・推進方法 96
8-1　計画の推進体制 96
8-2　計画の推進方法 97
用語解説 99

1. 計画の概要

1-1 計画策定の趣旨

○本市は平成 18 年 2 月 20 日に、水沢市・江刺市・前沢町・胆沢町・衣川村の 2 市 2 町 1 村が合併して誕生した。

○本市における公共交通に係る計画として、市町村合併前から引き継いだ交通体系や路線を調整し、早期にバス交通体系を確立するため、平成 23 年 2 月に第 1 次奥州市バス交通計画(計画期間：H23～H25)を策定し、現行の第 3 次奥州市バス交通計画（以下、バス交通計画）は令和 5 年までの計画期間としている。

○奥州市地域公共交通会議では、バス交通計画の内容に基づき、本市における公共交通のあり方を検討するとともに、効率的かつ効果的で、長期的に持続可能な公共交通体系の再構築に向けた取り組みを進めてきた。

○しかしながら、公共交通を取り巻く環境は全国的に著しく変化しており、人口減少や少子高齢化、2024 年問題等による運転士不足の顕著化など、バス交通計画策定時より公共交通を取り巻く環境が急激に変化してきたことから、市民の移動手段の確保においては市政を進める上で重要な課題となっている。

○以上の背景を踏まえ、バス交通計画の内容を見直し、まちづくりと連携した公共交通の基本的な方針と施策体系を示す、地域公共交通の「マスタープラン（ビジョン＋事業体系を記載するもの)」として「奥州市地域公共交通計画（第 4 次奥州市バス交通計画)」を策定するものである。

○なお、本計画は令和 2 年 11 月に改正された「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」における「地域公共交通計画の作成及び実施」に基づき作成するものである。

1-2 計画の目的

○地域公共交通計画には、「地域にとって望ましい地域公共交通ネットワークの姿」を明らかにする「マスタープラン」としての役割を果たすことが求められている。

○「地域にとって望ましい地域公共交通ネットワークの姿」とは、言い換えれば「地域の将来像の実現に向けた公共交通のあるべき姿」であると考えられる。本計画においては、地域の公共交通を最大限活用するとともに、その輸送資源を活用する具体策を盛り込むことで、まちづくり全般（都市計画、福祉、観光、教育等）とも連携・整合を図り、地域が一丸となって推進することが重要となる。

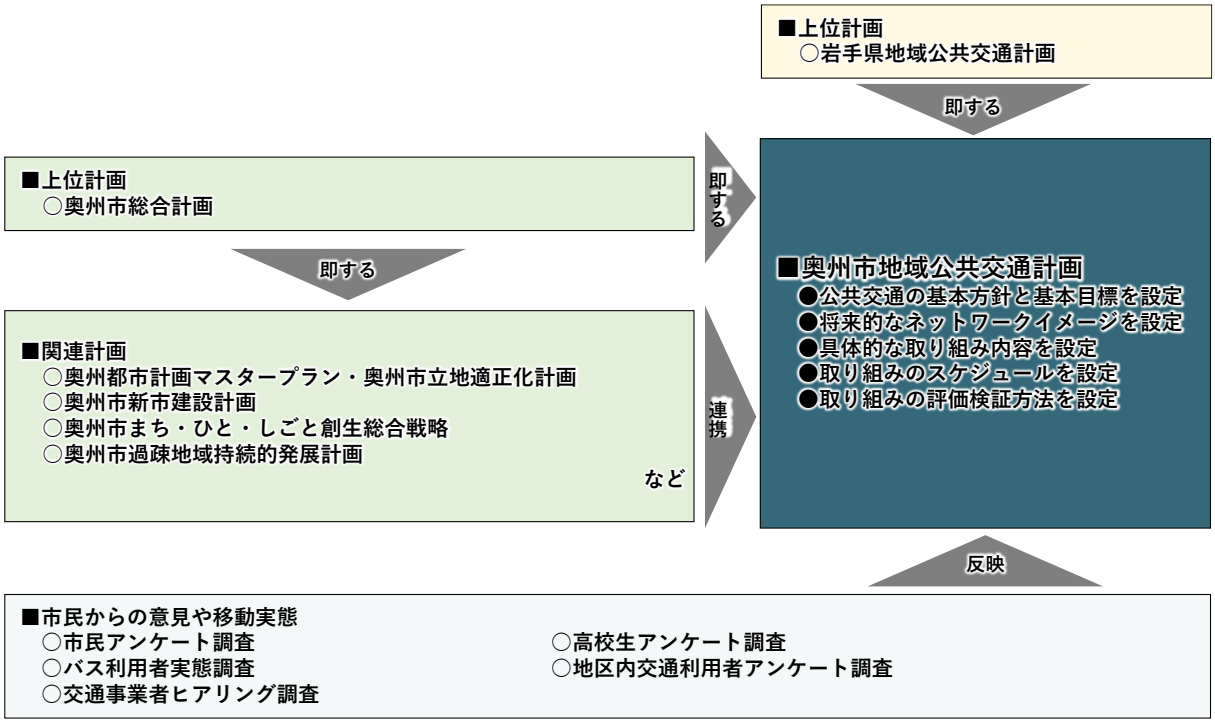
○以上を踏まえ、本計画はバス交通計画の内容を引き継ぐ新たな地域交通のマスタープランとして、これまでの事業推進により新たに発生した課題を踏まえるとともに、公共交通だけではなく、地域の様々な輸送資源を活用した、市全体の移動サービス等が一体となったネットワークの将来像を示す。

地域の個性がひかり輝く　自治と協働のまち　奥州市

奥州市のめざすべき都市像（「奥州市総合計画」より）

1-3 計画の位置付け

〇本計画の位置づけは以下のとおり。



1-3-1 上位計画（奥州市総合計画）における考え・位置づけ等

〇移動に関する考え方について、最上位計画では以下のように示されている。

表　移動環境等に関する考え方の記載（奥州市総合計画より）

分野	内容
公共交通全般	・広域移動を担う幹線交通の維持・確保 ・市域内移動を担う支線交通の維持・確保 ・地区内交通の導入 ・公共交通の利用促進
福祉	・移動制約者の支援の仕組みづくり ・必要なサービスにつなげる体制づくり
商業	・商店街活性化に資する賑わいの創出 ・商店街の情報発信機能の拡充
観光	・広域観光ルートの確立と奥州市らしさを活かした観光客誘致の促進
デジタル化	・市民へのデジタル活用支援 ・AI・RPA の導入 ・公開するオープンデータの拡充と利活用の取組支援

1-3-2 関連計画に記載される事項

〇移動に関する考え方について、関連計画では以下のように示されている。

表　取り組み内容（一部抜粋）

策定主体	計画名称	内容
市	奥州市都市計画マスタープラン	〇バスの利便性を高め利用しやすい環境づくりを進めるため、国、県、バス事業者と連携を図り、路線網の再編・充実の推進と、低床バスや低公害車両の導入の促進 〇鉄道駅のバリアフリー化を促進しつつ、鉄道とバスとの連絡性の向上 〇観光拠点を結ぶ路線・市内循環バス等の運行検討と、バス待合空間の充実等を図る 〇地域の実情や需要動向に応じた柔軟な対応が可能な小型バスやデマンドバス等の運行を検討 〇鉄道駅の交通結節機能を強化するため、パークアンドライド駐車場や自転車等駐車場の整備・充実を図る 〇市街地や拠点の機能分担と、連携を支える道路網やバス路線網の強化等によるネットワークの充実
	奥州市新市建設計画	〇鉄道・バスの確保や改善を促しつつ、コミュニティバスの充実などを図り、交通弱者などを考慮した人にやさしく利便性の高い交通体系の充実を図る
	奥州市まち・ひと・しごと創生総合戦略	〇接続性の高い交通体系の構築
	奥州市過疎地域持続的発展計画	〇地域の需要等に応じた、市営バス、コミュニティバスの効率的な運営 〇市民の足として利用しやすい体制づくり 〇地域住民、公共交通事業者、行政との協働により、路線バスより効率的で、利便性が向上するデマンド交通の導入推進
	奥州市地域福祉計画	〇移動制約者が安心して地域生活を送れるよう、地域の状況に応じた移動支援を地域住民が中心となり取組む
	第2次奥州市環境基本計画	〇低炭素社会づくりに向けた積極的な情報提供、事業者等への活動支援及び啓発 〇公用車の更新時における低炭素型車両（低公害車）への切替推進
広域	定住自立圏共生ビジョン	〇路線バスの維持・確保と利用促進に取組むほか、新たな交通手段の検討、導入等に取組む

（参考）奥州市立地適正化計画について

○立地適正化計画は、医療・福祉、商業施設や住居等がまとまって立地し、高齢者をはじめとする住民が公共交通により、これらの生活利便施設等にアクセスできるなど、福祉や交通なども含めて都市全体の構造を見直し、『コンパクト・プラス・ネットワーク』のまちづくりを進めるための包括的なマスタープランである。

○立地適正化計画では、市民の居住を誘導すべき区域（居住誘導区域）や医療・福祉・商業施設などの都市機能増進施設の立地を誘導すべき区域（都市機能誘導区域）等が定められており、奥州市では「水沢駅周辺」「前沢駅周辺」「江刺総合支所周辺」「水沢江刺駅周辺」がそれぞれ区域として定められている。

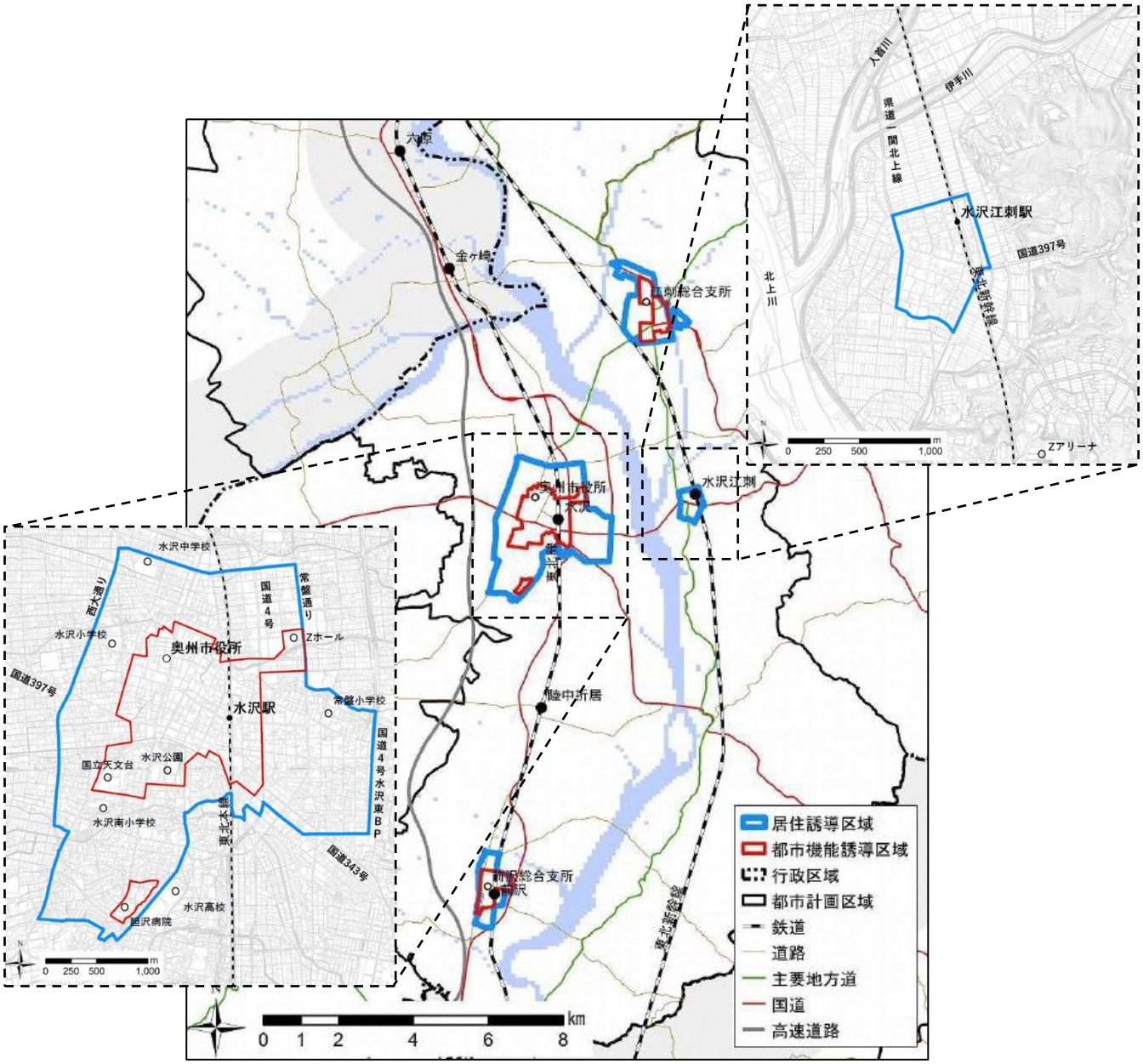


図　居住誘導区域と都市機能誘導区域

資料：奥州市立地適正化計画

1-3-3 SDGs との関連性

SDGs（Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標）は、平成 27 年 9 月の国連サミットで採択された国際社会の共通目標であり、「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現のため、経済・社会・環境の三側面を調和させる総合的取組として 17 のゴール、169 のターゲットから構成される。

SDGs は世界的な取り組みであり、地域ごとの課題や解釈も人それぞれであるため、関係者間の共通理解を図る必要があることから、奥州市では SDGs に本市特徴を取り入れるなどなじみやすいものとした『奥州市版 SDGs』を作成し、奥州市総合計画にて各取組を推し進めている。

図　奥州市版 SDGs

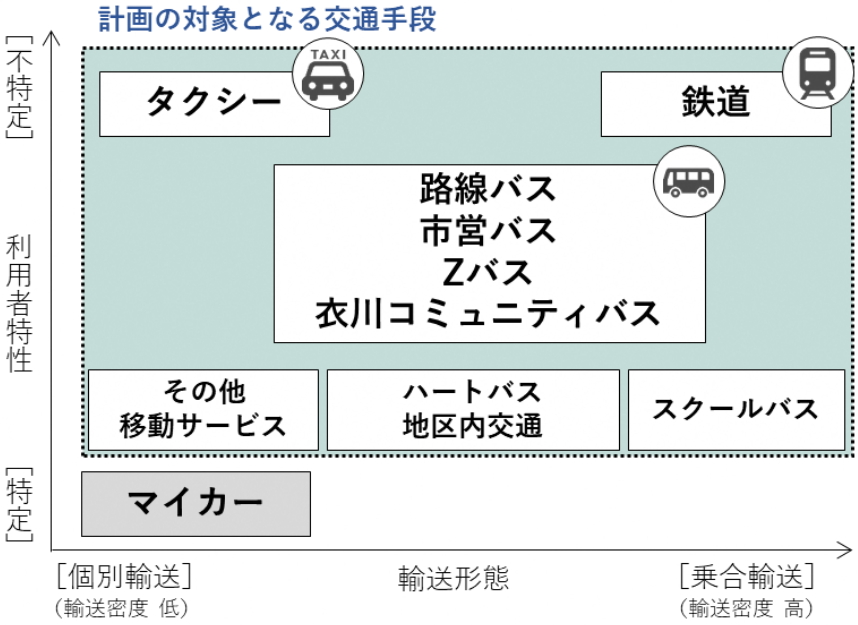
本計画においても、下記の公共交通やまちづくりに関連する事項を中心に、本計画が掲げる『目指すべき将来像』の実現によって SDGs 達成に貢献できるよう、本計画の取組を推進する。

<アクション例>
- 輸送インフラ（道路、公共交通）の検討・整備
- 情報通信網の検討・整備
- 技術開発、利用、利用促進
- 災害に対する備え　等

<アクション例>
- 再生可能エネルギーの導入・情報発信・まちづくり
- 防災・減災
- 文化財、遺跡の保護
- 持続可能なまちを構成する生活環境の構築（都市計画）　等

1-4 計画の対象範囲

○本計画の検討対象となる交通手段は以下のとおり。



＊その他移動サービスについては、図中で示したもの以外にも自家用車有償旅客運送や福祉輸送、病院・商業施設・宿泊施設・企業など送迎サービスとも適切に連携

図　対象となる交通手段

1-5 計画の区域

○本計画の区域は奥州市全域とする。

○なお、複数市町村を運行する都市間の交通の運行見直しや改善を図る必要がある場合は、隣接する市町村と協議調整を図る。

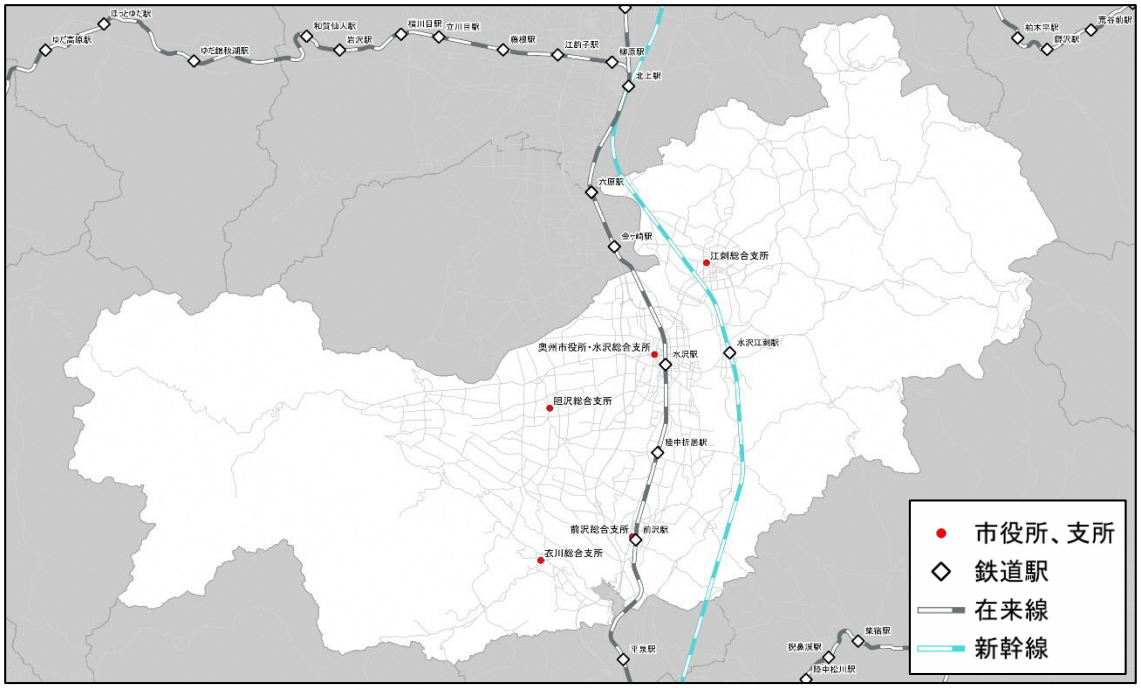


図　計画の対象区域

1-6 計画の期間と進め方

〇本計画の期間は、令和 6 年度から令和 10 年度までの 5 ヶ年とする。
〇なお、本計画に示す内容等については、総合計画の見直しや社会情勢の変化等、公共交通に関する状況に変化が生じた場合は、必要に応じて見直しを図る。

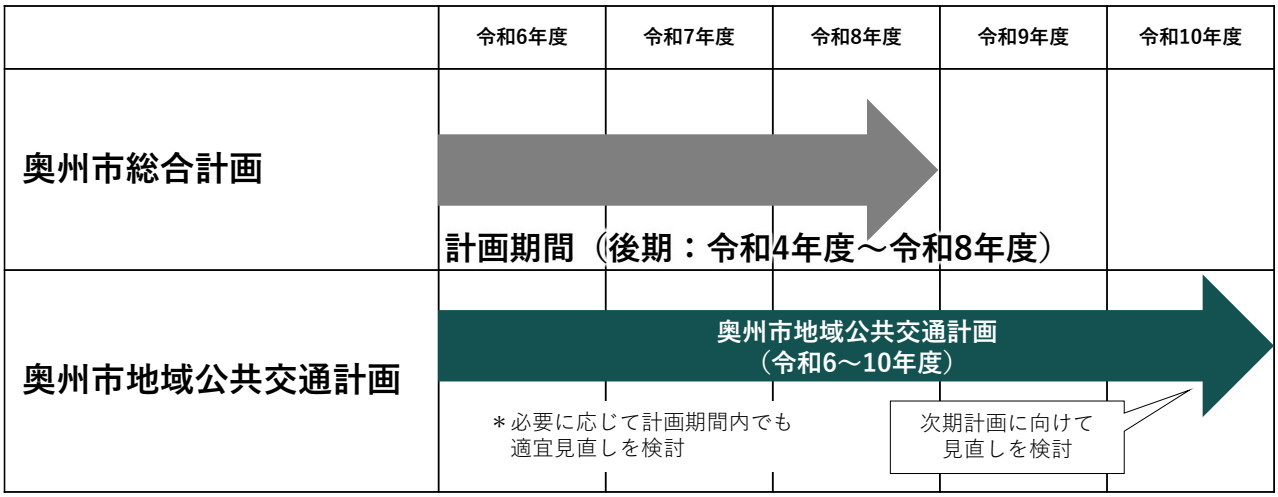


図　計画期間

1-7 バス交通計画の振り返り

1-7-1 バス交通計画の将来像と基本方針

〇本計画と同様に奥州市における「将来のまちづくりの方向性」や公共交通を取り巻く現状・課題などを踏まえ、バス交通計画の将来像と基本方針を以下のとおり定めている。

（目指すべき将来像）

「市民・公共交通事業者・行政が協働し、便利で効率的な公共交通のあるまち　奥州市」

（基本方針）

基本方針１
広い市域の移動を可能とするための利用ニーズに合った効率的で効果的なネットワーク体系の確立（市域内外を往来可能な公共交通ネットワークの確立）

基本方針２
すべての市民が住み慣れた場所で生活できるための協働による持続可能な交通体系の確立（「地区内交通」の導入）

基本方針３
分かりやすくだれもが安心して利用しやすい公共交通の環境整備（利用促進活動の充実）

第 3 次奥州市バス交通計画の将来像と基本方針

資料：第 3 次奥州市バス交通計画

1-7-2 バス交通計画の施策と実施状況

◯バス交通計画においては、課題や公共交通の問題点・課題なども踏まえて、公共交通のあり方（目指す将来像）及び公共交通の基本方針に基づき、以下の施策を実施している。

表　バス交通計画の施策と実施状況(1/2)

	項目	内容
施策 1-1①	**鉄道、路線バス等の連携強化**	鉄道・路線バス等との乗継において、一部の路線で広域路線との乗継に配慮したダイヤ設定や、路線便数の維持、地区内交通乗継拠点を設定。また、GTFS データを整備し、乗継検索へと対応。
施策 1-1②	**利用者のニーズに合わせた運行の効率化**	市営バスやＺバス等において通勤通学・通院、地区内交通との乗継を考慮した見直しを実施。地区内交通の導入に併せて同様に路線の統合による効率化を実施。
施策 1-1③	**広域バス路線の明確化と維持・確保**	水沢前沢線・水沢金ヶ崎線の維持・確保について、関係者協議を実施したが、路線の維持には至らず。
施策 1-1④	**広域バス路線を維持するための財政的支援**	広域生活路線維持事業補助（生母線・胆沢水沢線）を継続して実施。
施策 1-2①	**路線バスと廃止路線代替バス、コミュニティバスの連携強化**	地区内交通⇔市営バス間の乗継調整のため、路線バスとの乗継見直しは至らず。各地区での乗継拠点として公共施設等の活用により休憩場所やトイレ対策に配慮。
施策 1-2②	**市街地と各地域内の拠点間を結ぶ路線の明確化と維持・確保**	都市計画マスタープランに定める拠点間の路線について、胆沢水沢線やＺバス羽田線などの見直しを実施。
施策 1-2③	**利用者のニーズに合わせた運行の効率化**	利用者ニーズを踏まえ、市営バスや衣川コミュニティバスの見直しを実施。また、地区内交通の導入に並行し、市営バスやコミュニティバスにおいて路線の統合・見直しを実施。
施策 1-2④	**市街地を往来可能な路線の強化**	水沢江刺線やＺバス羽田線・黒石線・南方線を見直し、路線の強化には至らなかったが、Ｚバス羽田線においては路線便数を維持。
施策 1-2⑤	**関係部局間の連携による移動手段の効率化と料金格差の是正**	胆沢・衣川地域において患者輸送バスを廃止し、地区内交通への移行を実施。スクールバスの利活用は、学校教育課と定期的に協議を行い、路線バス等の通学利用を検討。
施策 1-2⑥	**再編後の廃止路線代替バス、コミュニティバスを維持するための財政的支援**	廃止路線代替バス運行費補助及びコミュニティバス運行事業補助を継続して実施。
施策 1-3①	**公共交通ネットワーク及びダイヤの見直しによる運転士の再配置**	利用実態を踏まえ路線の短縮及び減便を実施したものの、運転士不足の解消には至らず。
施策 1-3②	**運転士の確保対策に係る支援**	市営バスの路線統合や移動サービスの廃止による運行の効率化を実現。運転免許取得については交通事業者が補助制度を実施したが、市の側面的支援は実績なし。

表　バス交通計画の施策と実施状況(2/2)

	項目	内容
施策 2-1①	**幹線、支線の結節点（地区の拠点）を結ぶ地区内交通の導入**	各地区内交通の導入において、地区センターをはじめとする公共施設等を乗継拠点として設定し、地区内交通とバス間の円滑な乗り継ぎに寄与。
施策 2-1②	**地区内交通を進める体制の確立**	地域の実情に配慮した体制の構築を実施したが、一部地区では体制構築に至らず。地区内交通の運行開始後は運営主体・交通事業者・市による定例会議、見直しを実施。
施策 2-1③	**地区内交通を支える財政的支援**	自家用有償旅客運送方式において、車両リース等も含む地区内交通運行経費から利用料収入を除いた差損分を全額補助する事業補助を実施。
施策 2-2①	**地区内拠点の整備と利用環境の改善**	待合のための施設整備の実施には至っていないが、施設管理者の協力のもとでベンチの設置や冬季の暖房対応といった待合の場を提供。
施策 2-2②	**高齢者が利用しやすい環境づくり**	地区内交通導入時に高齢者宅を中心に戸別訪問説明を実施。また、タクシー・ワゴン車両の導入によって、地区内交通の乗降しやすさ、きめ細かな運行を実現。
施策 3-1①	**公共交通を利用しやすい運賃体系の導入**	地区内交通にて乗継利用による運賃割引を開始。キャッシュレス決済については交通事業者に対して導入を要望。
施策 3-1②	**公共交通に関する情報提供の充実**	路線見直しの影響で公共交通ガイドブックの作成は見送り。一方、GTFS データの整備を行い経路探索ツールへ適用済、バスロケーションシステムは事業者と協議中。
施策 3-1③	**企業との連携による公共交通の利便性の向上**	市営バス路線の見直しの際、沿線の商業施設での乗り入れを開始。
施策 3-1④	**バスの利用環境の改善**	江刺バスセンターの複合施設化によって快適な待合環境を提供した。バスのカラーリングやラッピングはバス再編の影響により未対応。
施策 3-1⑤	**ユニバーサルデザインに対応した環境整備**	車両更新時に UD タクシーの導入を行った事業者もある。低床バス車両については、市営バスは導入済みであり、その他交通事業者は車両更新時に随時導入中。
施策 3-2①	**公共交通機関を利用する意識の醸成**	令和 5 年 9 月に地域公共交通シンポジウムを開催。乗り方教室も実施し、意識の醸成を図った。
施策 3-2②	**公共交通の運営状況等の情報提供**	市広報にて公共交通に係る財政負担額を掲載し周知を実施。地区内交通の運営状況については運行主体・事業者・市で定期的な協議の場を設け情報共有、広報を実施。

1-7-3 バス交通計画の目標指標の達成状況

〇バス交通計画に示される目標値の達成状況は下表のとおり。

表　目標指標の達成状況

	目標指標	策定時 （H30 年度）	目標値	現況値 （R4 年度）	達成 状況
指標①	**路線バスの利用者数**	298,265 人	239,000 人	213,760 人	未達
指標②	**コミュニティバス 1 便あたりの利用者数**	2.5 人	3.0 人	2.1 人	未達
指標③	**路線、区間の見直し累積件数**	1 件	10 件	10 件	**達成**
指標④	**地区内交通の運営組織数**	0 組織	18 組織	14 組織	未達
指標⑤	**幹線、支線バスの利用者数**	420,822 人	325,000 人	291,858 人	未達
指標⑥	**公共交通の利用者数（路線バス等、地区内交通のみ）**	420,822 人	340,000 人	296,438 人	未達
指標⑦	**公共交通に関する運営状況の情報発信回数**	0 回/年	2 回/年	1 回/年	未達

2. 地域の現況

2-1 地勢等

○本市は岩手県の内陸南部に位置し、北は北上市・西和賀町・金ケ崎町・花巻市、南は一関市・平泉町、東は遠野市・住田町、西は秋田県に隣接している。
○奥州市役所は水沢地域の中心部に立地している他、江刺・前沢・胆沢・衣川地域にそれぞれ総合支所が立地している。
○鉄道駅は、JR 東北新幹線が運行する「水沢江刺駅」、JR 東北本線が運行する「水沢駅」「陸中折居駅」「前沢駅」の計 4 駅が立地している。

2-2 人口の推移

①総人口・将来人口

○市内の総人口は減少傾向にあり、平成 27 年から令和 2 年の 5 年間で約 7,000 人程度減少している。
○65 歳以上の割合は増加傾向となっており、令和 17 年以降は 40%を超える推計となっている。

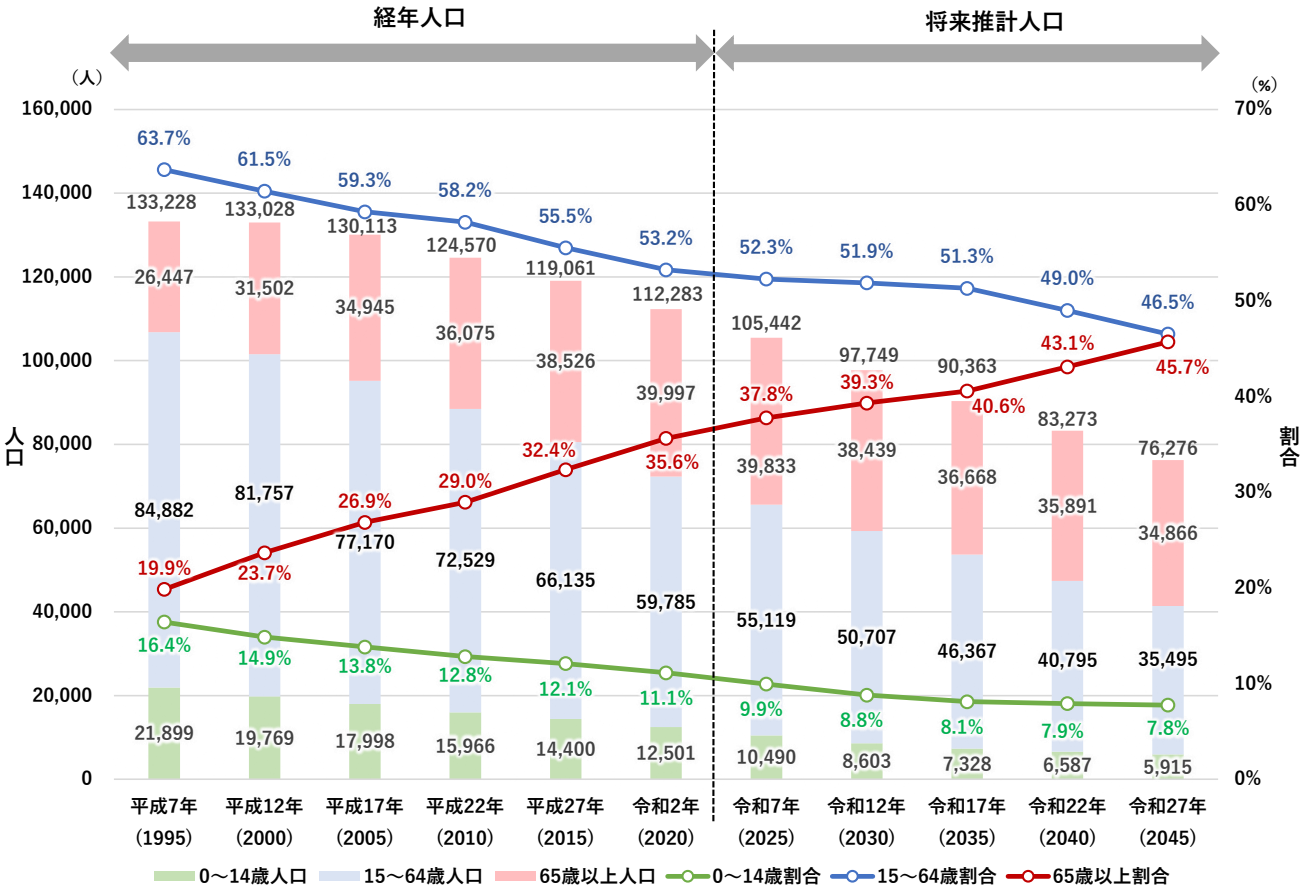


図　人口の推移

出典：実績値/国勢調査（令和 2 年）、将来推計値/国立社会保障・人口問題研究所（令和 5 年推計）

②DID（人口集中地区）

○平成 27 年時点では、水沢駅周辺が人口集中地区となっている。

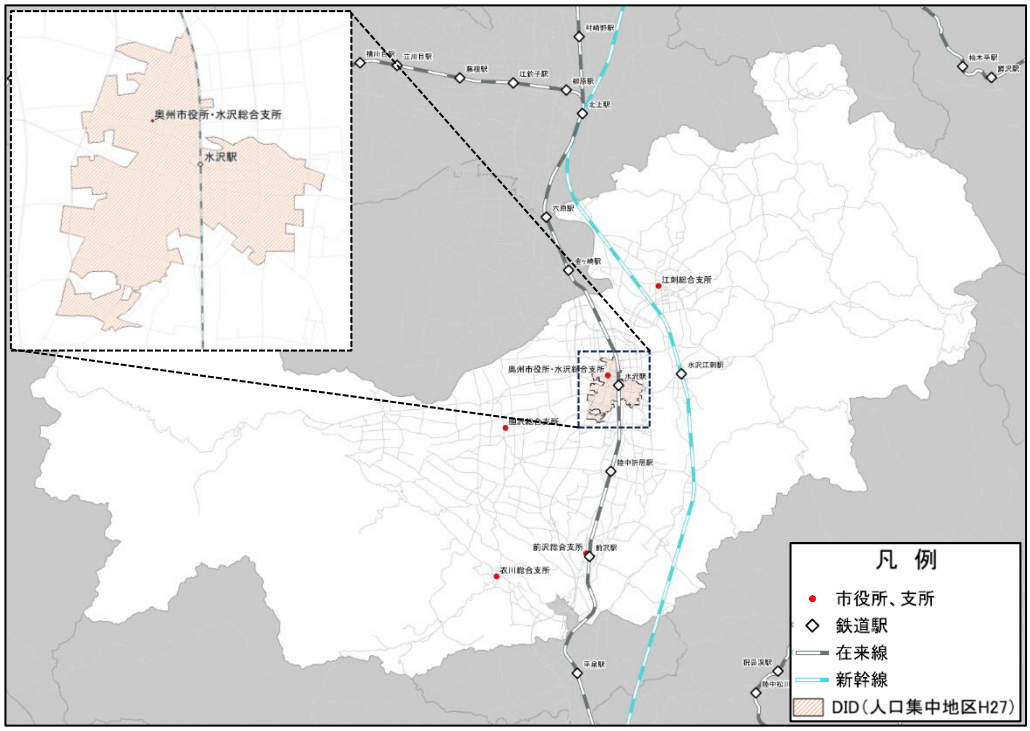


図 奥州市の DID（人口集中地区）

資料：国土数値情報（平成 27 年）

③人口分布（メッシュ）

○水沢駅・前沢駅・江刺総合支所付近に人口の集中が見られる。

○その他の地域にて 25 人未満の分布が広がっている。

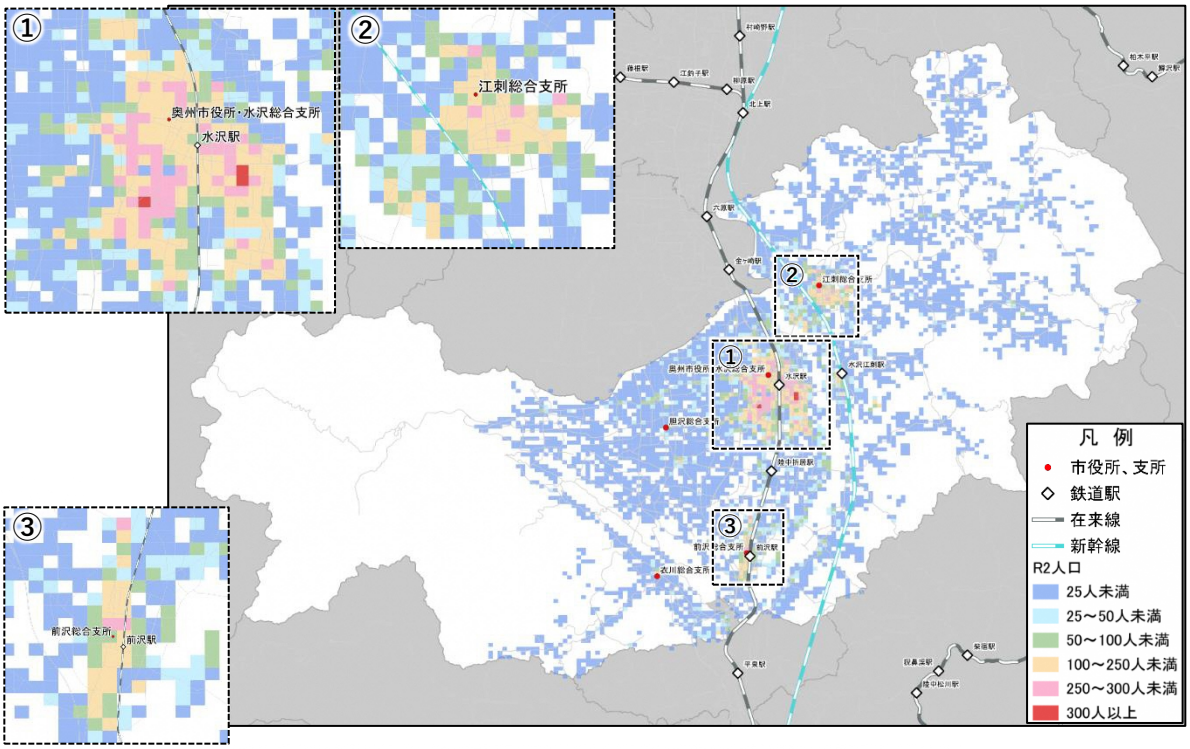


図 奥州市の人口分布

資料：国勢調査（令和 2 年）

④高齢化率（地域別）

○高齢化率の分布状況は地域ごとに差があり、水沢・江刺・前沢地域の中心部では 30%を下回る地域が多い一方、その他のほとんどの地域では高齢化率が 40%を上回っている。

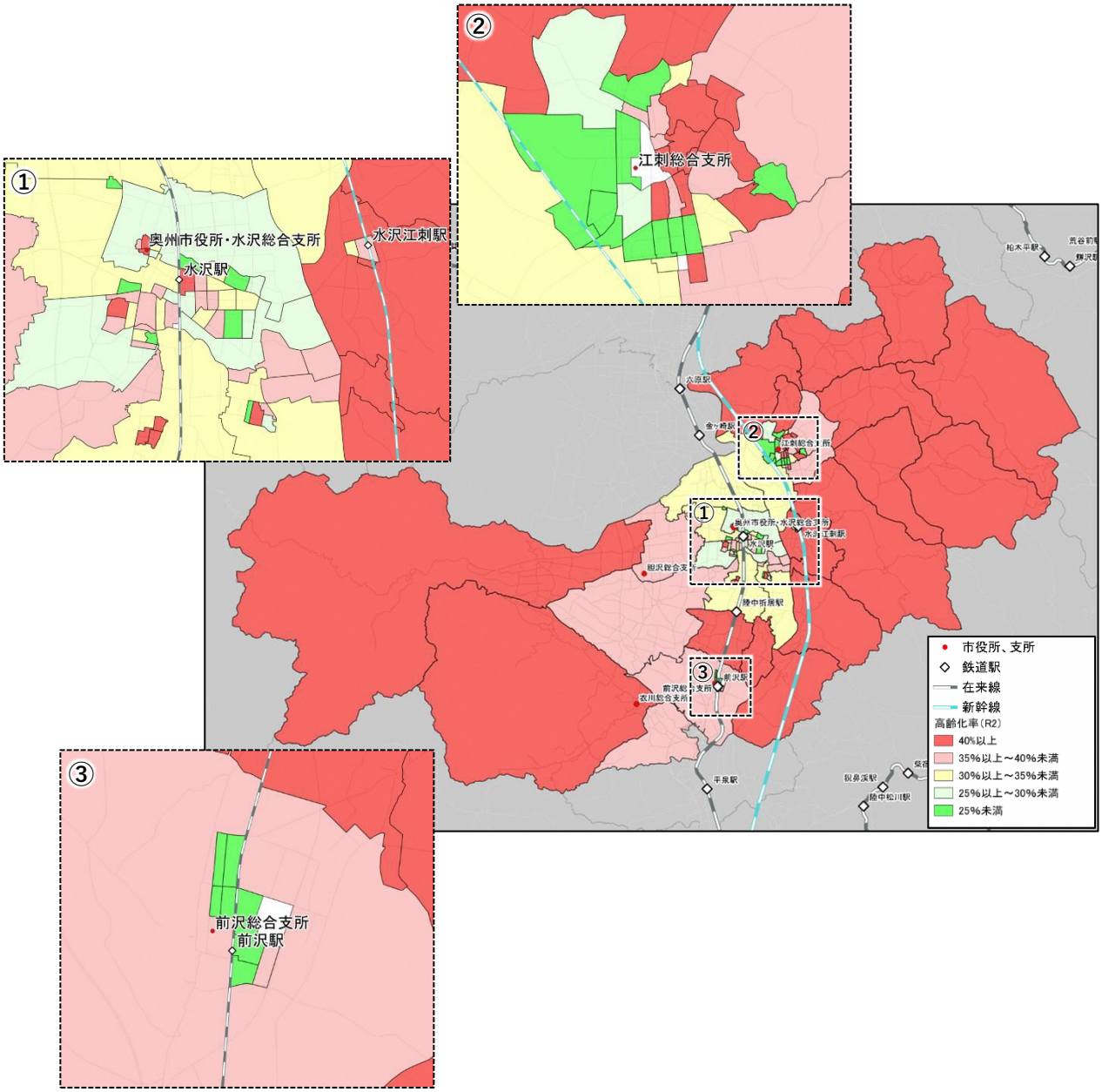


図 奥州市の高齢化率

資料：国勢調査（令和 2 年）

2-3 施設立地状況

①商業施設

市内の商業施設は水沢・前沢・江刺地域の中心部に集中しており、その他の地域には大型の商業施設が立地しておらず、買い物に不便な地域となっている。

②医療施設

医療施設は、水沢・前沢・江刺地域の中心部に立地しており、特に水沢地域には医療施設が多く立地している。

③教育施設

教育施設は各地域に点在している。なお、小・中学校においては市学校再編計画に基づいた統廃合が行われており、バス交通計画策定時から学校数が変化している。

④地区センター

地区センターは地域コミュニティの拠点となっており、各地域に点在している。

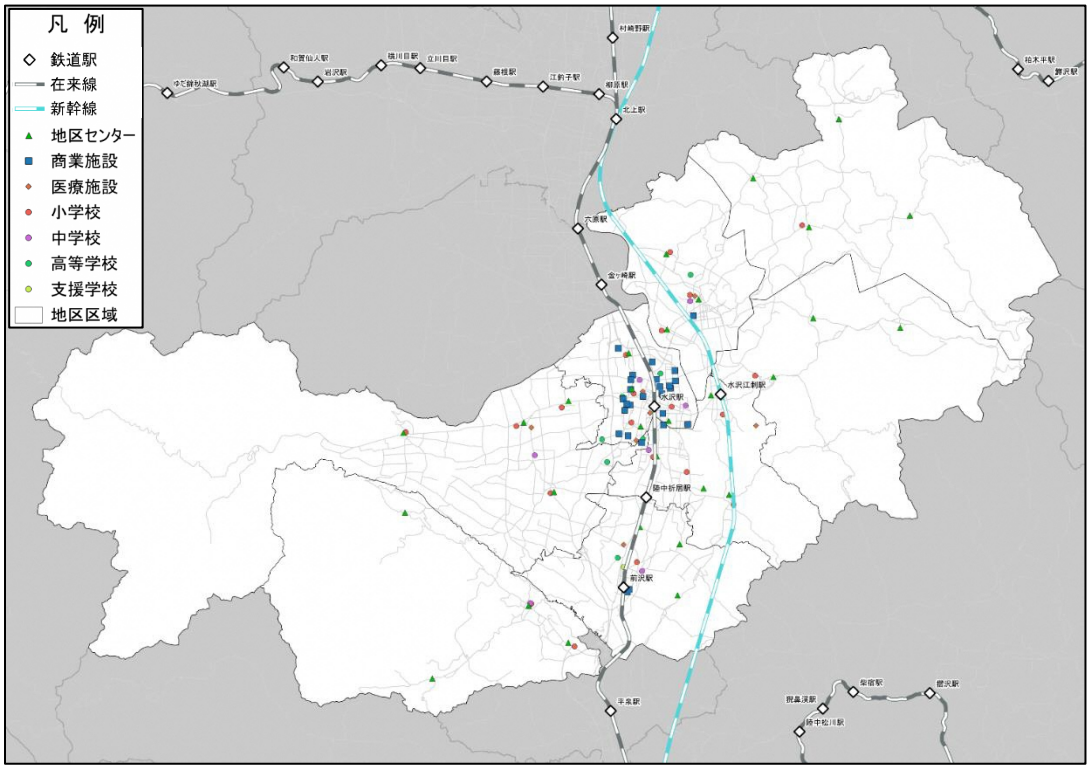


図 奥州市の施設立地状況

資料：商業施設：全国大型小売店総覧 2023 年版/医療施設：地域医療情報システム
教育施設：市 HP・各高校 HP/地区センター：市 HP

2-4 市民の移動実態

2-4-1 通勤流動

○1 日あたりの市外への通勤流動を確認すると、北上市が最も多く 3,457 人、次いで金ケ崎町が 3,363 人、一関市が 1,758 人と多い。

○市外からの通勤流動として、北上市が最も多く 1,984 人、次いで一関市が 1,981 人、金ケ崎町が 1,807 人と続く。

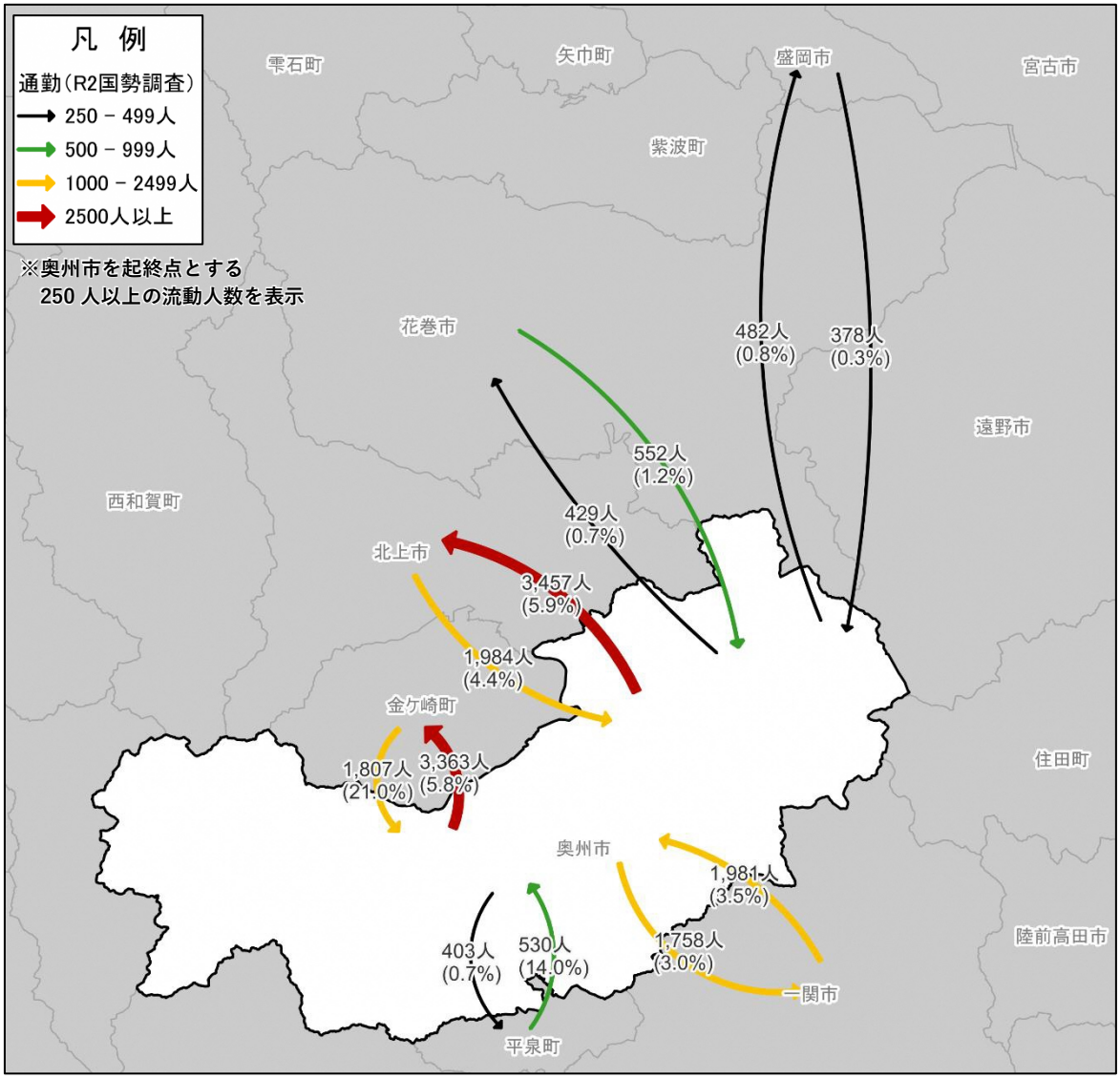


図 奥州市の通勤流動

資料：国勢調査（令和 2 年）
※流動割合は各市町村に居住する就業者を母数
とした市町村間を跨ぐ移動の割合を表示

2-4-2 通学流動

○1 日あたりの市外への通学流動を確認すると、一関市が最も多く 380 人、次いで盛岡市が 252 人、北上市が 204 人と多い。

○市外からの通学流動として、金ケ崎町が最も多く 186 人、次いで一関市が 73 人、北上市が 70 人と続く。

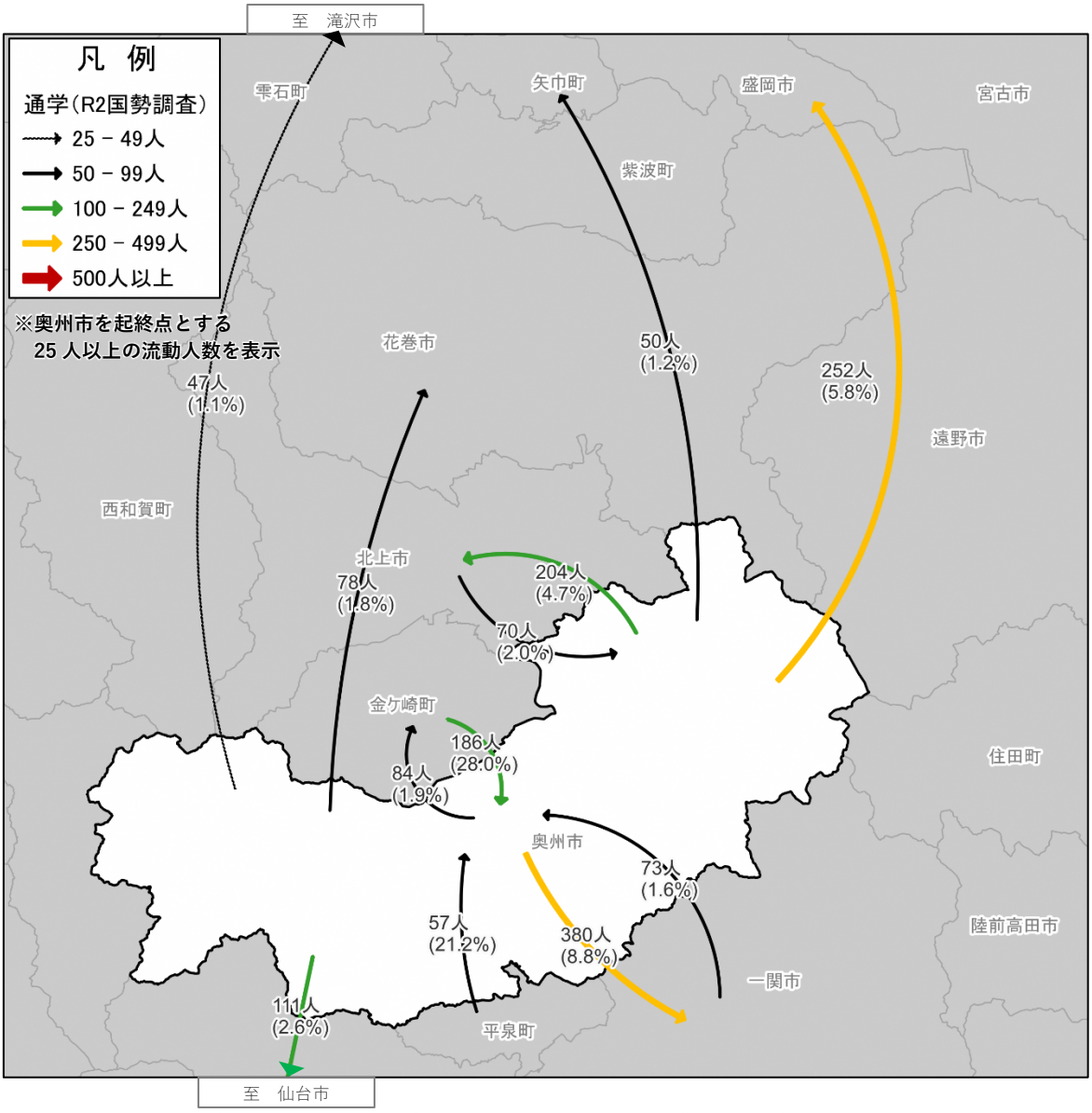


図 奥州市の通学流動

資料：国勢調査（令和 2 年）
※流動割合は各市町村に居住する就学者を母数
とした市町村間を跨ぐ移動の割合を表示

2-4-3 買い物流動

○買い物流動では、「水沢北部」「前沢」「江刺西部」など、市の中心街となっている地域については、その地域内で買物を行う傾向がある。

○一方で、その他の地域においては「江刺北東部・南東部」から「江刺西部」への流動や「胆沢」から「水沢北部」、「衣川」から「前沢」への流動がそれぞれ多く、隣接している地域へ買物に行く傾向が確認できる。

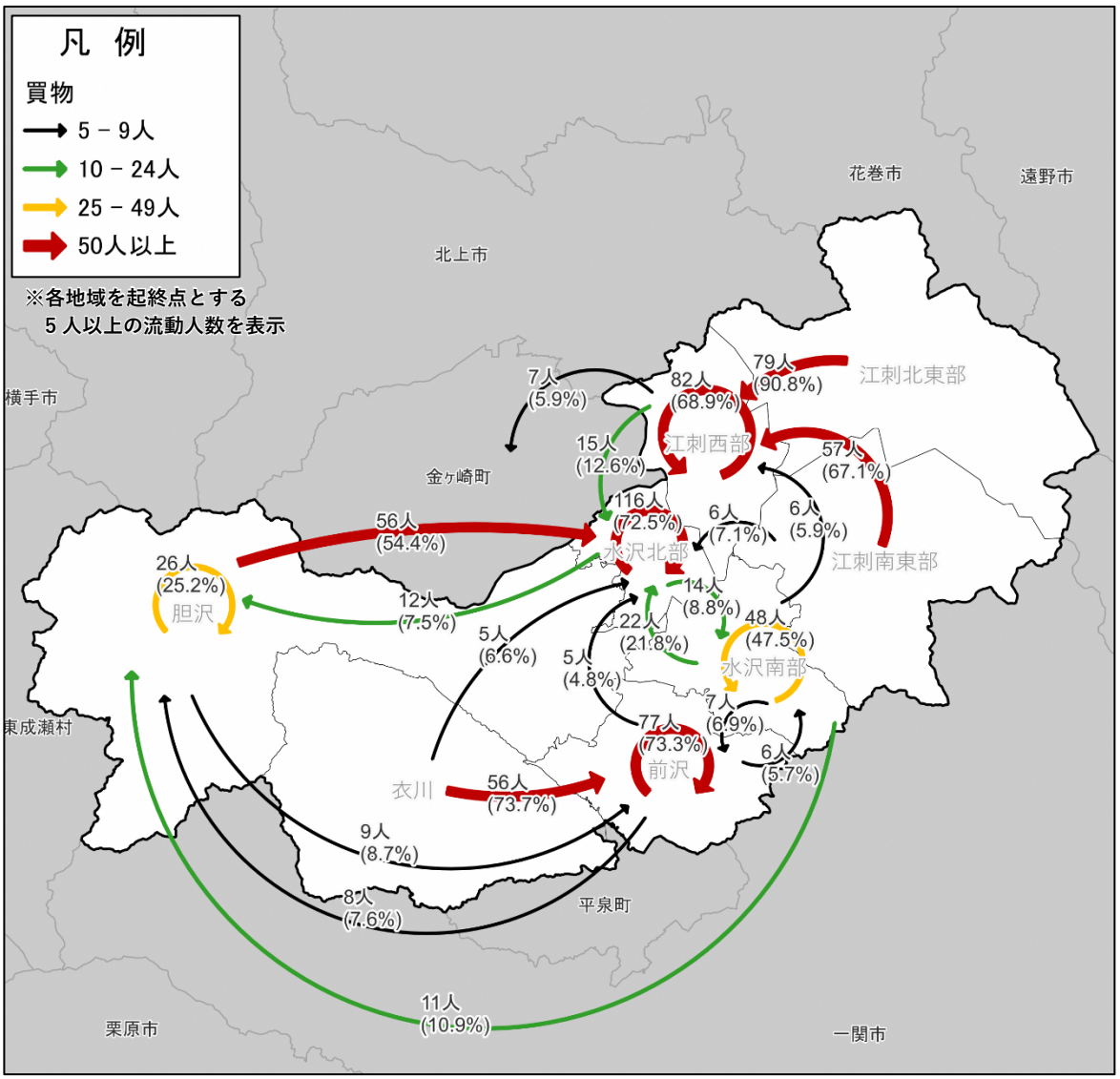


図 買い物の目的地

資料：R5 市民アンケート調査

※流動割合は、市民アンケートにて「日々の買い物を目的として外出する」と回答した各地域の回答者を母数とした移動の割合を表示

2-4-4 通院流動

○通院流動では、特に医療施設が多く立地している「水沢北部」や「江刺西部」への流動が確認できる。

○また、「江刺北東部・南東部」や「水沢南部」では、地域内における流動はない一方、「胆沢」「衣川」「前沢」では、一部の方が地域内の医療施設へ通院することが確認できる。

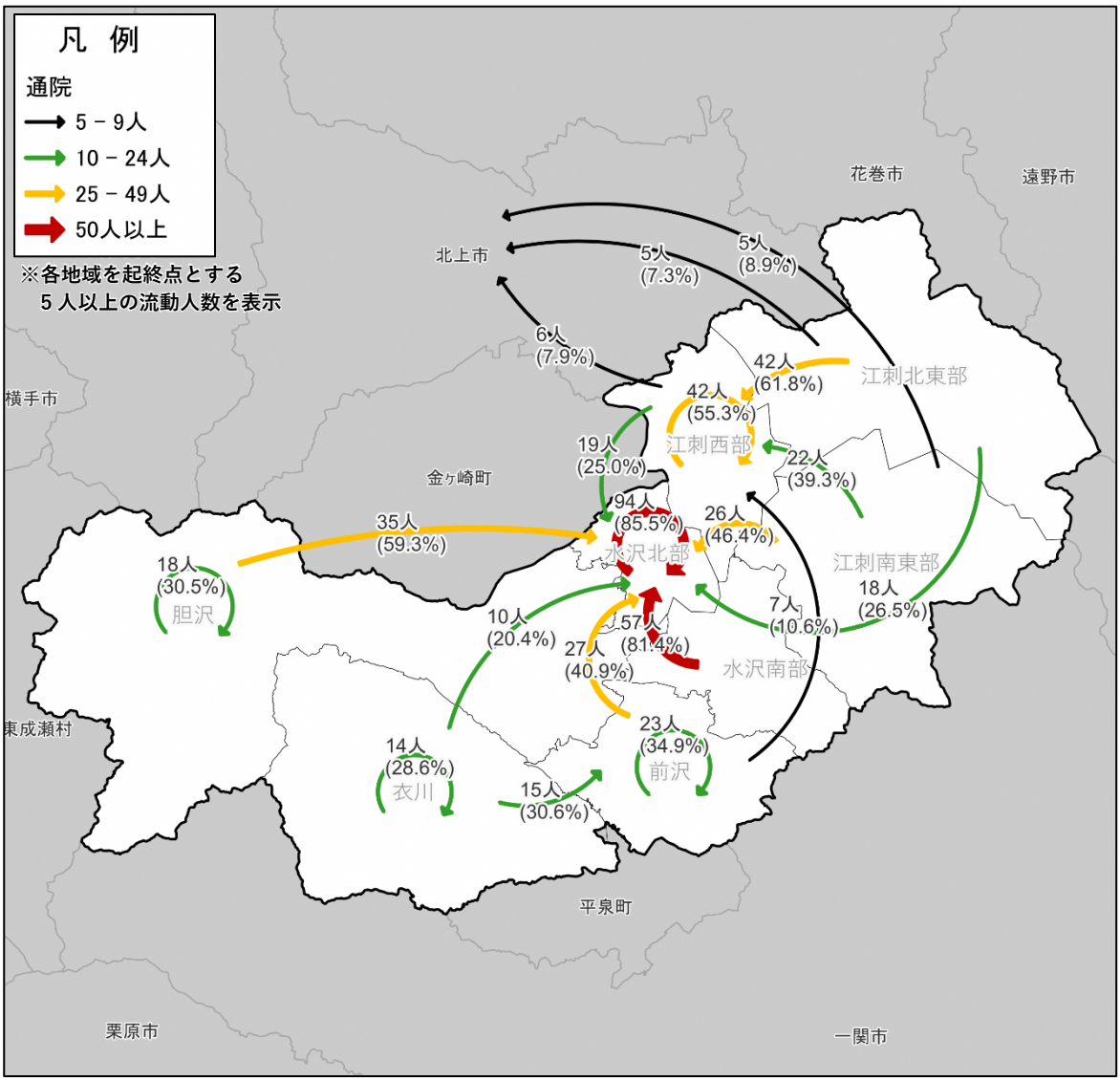


図 通院の目的地

資料：R5 市民アンケート調査

※流動割合は、市民アンケートにて「日々の通院を目的として外出する」と回答した各地域の回答者を母数とした移動の割合を表示

3. 公共交通の現状等

3- 1 公共交通の運行状況等

〇現状の公共交通ネットワークは以下のとおり。

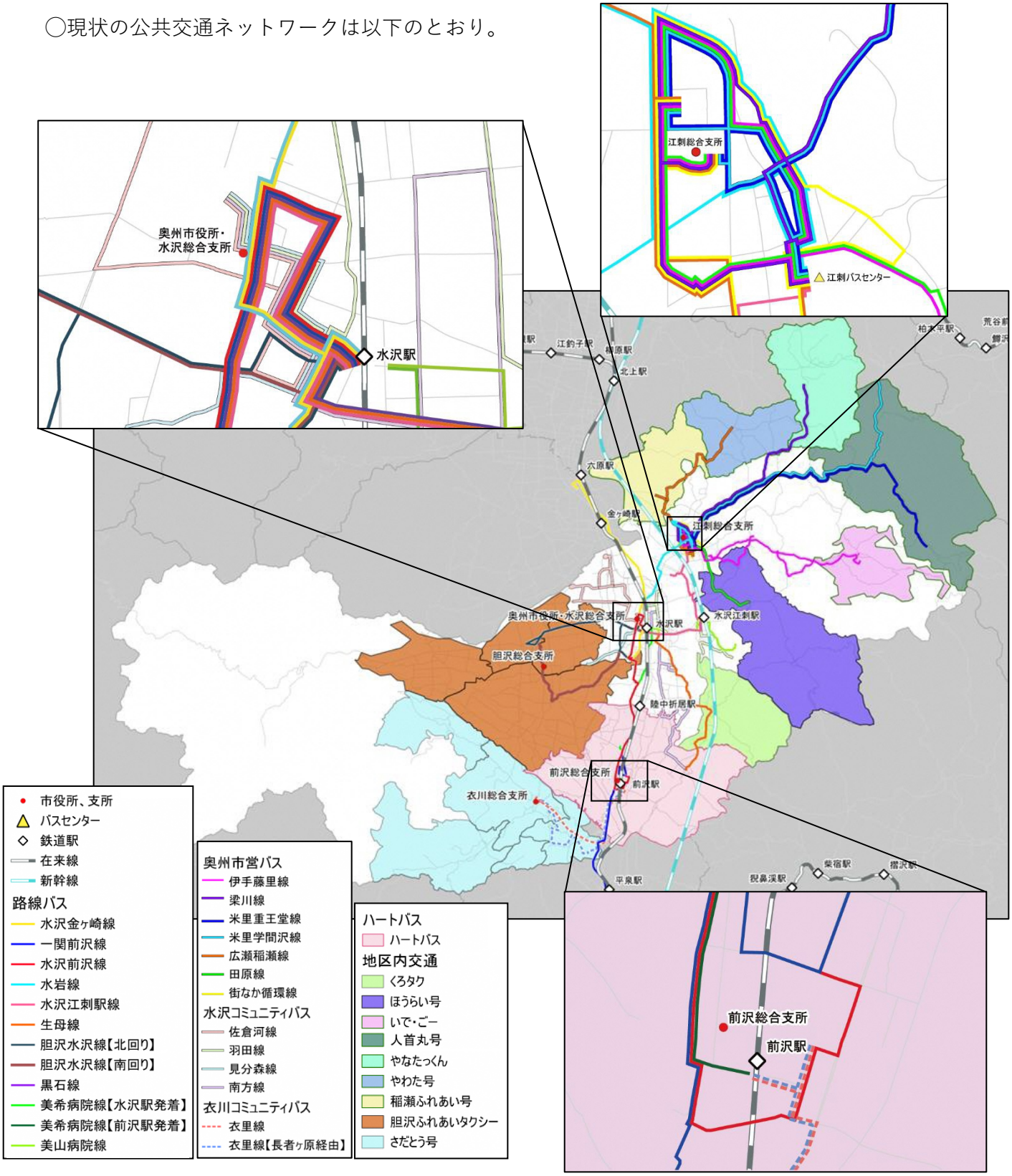


図 運行路線

3-２公共交通ネットワークの現状等

3-２-１市内を運行する公共交通の概要

〇奥州市内を運行する公共交通は以下のとおり。
〇次ページ以降に各交通モードの個別概要を示す。

表　市内を運行する公共交通

サービス名	概要
JR 東北新幹線	〇東京駅から新青森駅間を結ぶ広域鉄道路線 〇市内には「水沢江刺駅」が立地
JR 東北本線	〇東京駅から盛岡駅間を結ぶ広域鉄道路線 〇市内には「水沢駅」「陸中折居駅」「前沢駅」が立地
路線バス	〇市内と金ケ崎町、平泉町、一関市の間を往復運行 〇市内には 10 路線が運行している 〇「水沢金ヶ崎線」「一関前沢線」は市内外を結ぶ路線であり、その他の路線は全て市内のみ運行
奥州市営バス	〇江刺地域を運行するバス 〇７路線が運行している 〇一部フリー乗降区間が存在
Z バス （水沢コミュニティバス）	〇水沢病院と水沢地域各方面間を運行するコミュニティバス 〇４路線が運行 〇一部フリー乗降区間が存在
衣川コミュニティバス	〇衣川地域を運行するコミュニティバス 〇１路線が運行 〇一部フリー乗降区間が存在
ハートバス	〇前沢地域内を運行する予約型乗合タクシー 〇運賃は 1 乗降 300 円で、免許返納者や小児などは 150 円
地区内交通	〇市内各地で決められたエリア内を運行する予約型乗合タクシー又は自家用有償旅客運送 〇市内で 9 サービスが運行 〇運賃は 1 乗降 500 円だが路線バスや市営バス等と乗り継ぐ場合は地区内交通・バス併せて最大 500 円で利用可能
一般タクシー	〇市内で 6 事業者が運行
スクールバス	〇市内の小中学校 13 校で運行

3-2-2 鉄道

〇鉄道の運行概要は以下のとおり。

表　鉄道の運行概要

路線名	起点・終点	駅所在市町村 ※県内のみ	運行本数				運行事業者
			平日		休日		
			上	下	上	下	
JR 東北新幹線	東京駅～ 新青森駅	二戸市　岩手町 盛岡市　花巻市 北上市　一関市	20	26	24	24	東日本旅客鉄道 株式会社
JR 東北本線	東京駅～ 盛岡駅	盛岡市　矢巾町 紫波町　花巻市 北上市　金ケ崎町 平泉町　一関市	18	19※	18	19※	

※快速便を除く

資料：JR 東日本 HP

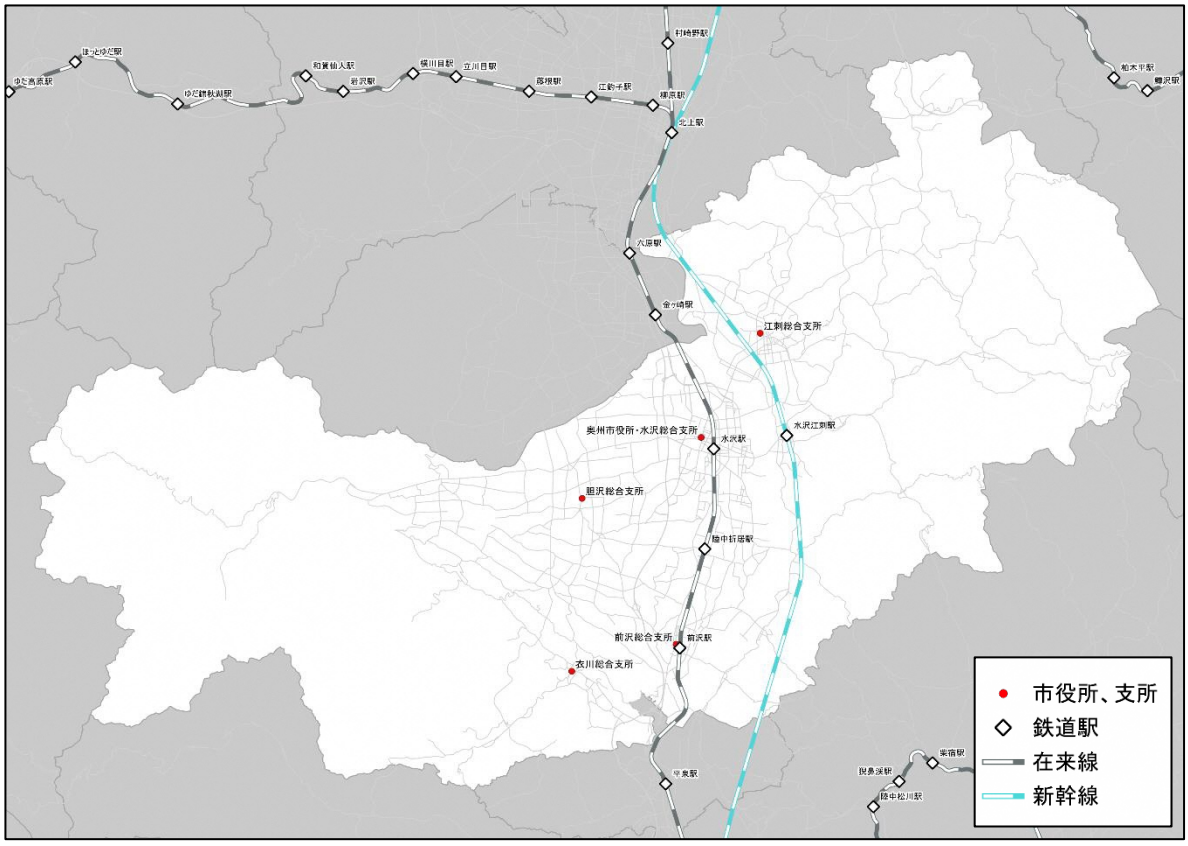


図 路線図（鉄道）

●鉄道の運行実績

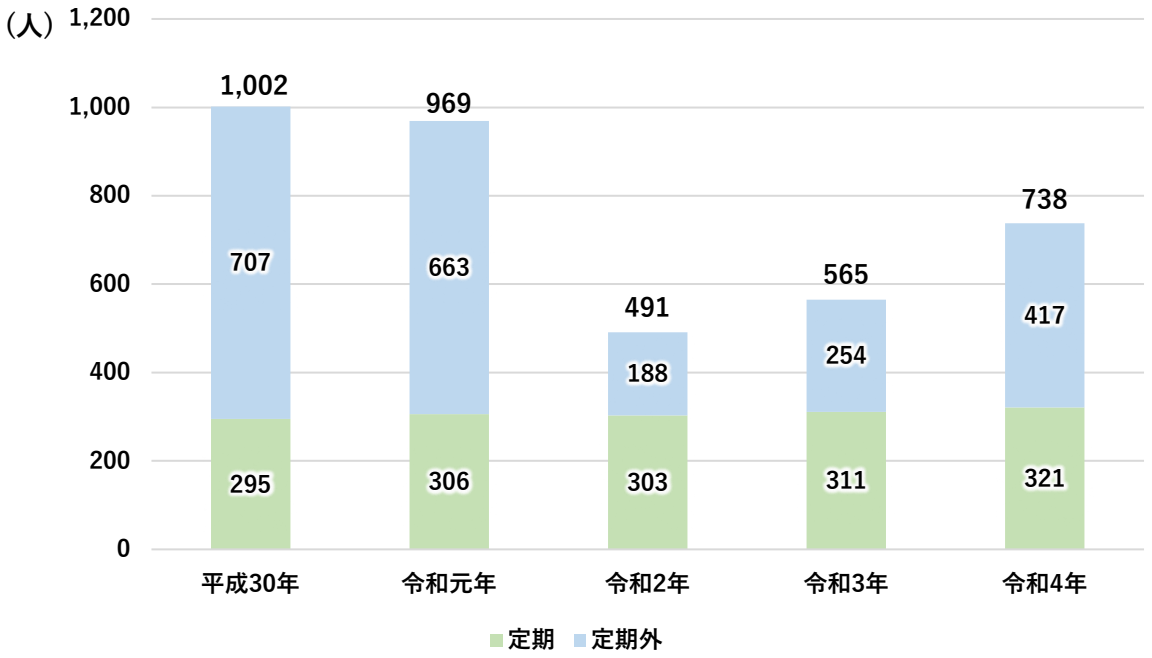


図 水沢江刺駅における１日あたりの平均利用者数の推移（定期・定期外別）

資料：JR 東日本 HP

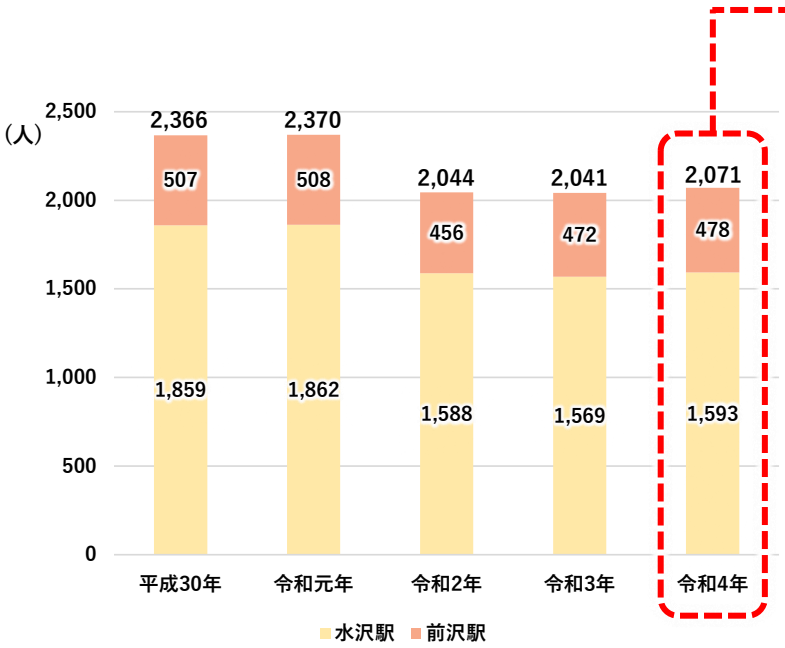


図 水沢駅・前沢駅における
１日あたりの平均利用者数の推移

資料：JR 東日本 HP

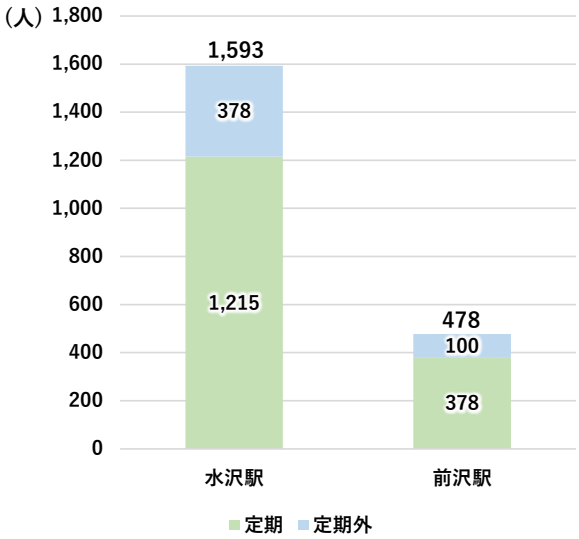


図 定期・定期外別の
１日あたりの平均利用者数

資料：JR 東日本 HP

3-2-3 路線バス

〇路線バスの運行概要は以下のとおり。

表　路線バスの運行概要

路線名	起点・終点	沿線市町村	運行本数				運行事業者
			平日		休日		
			上	下	上	下	
水沢金ヶ崎線	胆沢病院～ 県南免許センター	奥州市 金ケ崎町	6	6	3	3	岩手県交通 株式会社
一関前沢線	一関駅前～ イオン前沢店	奥州市 平泉町 一関市	13	13	10	10	
水沢前沢線	水沢駅前～ イオン前沢店	奥州市内	6	6	4	4	
水岩線	水沢駅前・ 胆沢病院～ 江刺バスセンター		13	16	6	6	
水沢江刺駅線	胆沢病院～ 江刺バスセンター		4	6	4	4	
生母線※1	胆沢病院～ 生母		3	2	—	—	
胆沢水沢線 **【北回り】**※1	水沢駅前・ まごころ病院～ 胆沢病院		3	4	—	—	
胆沢水沢線 **【南回り】**※1	水沢駅前～ 胆沢病院・ まごころ病院		3	4	—	—	
黒石線※1	胆沢病院～ 黒石		1	2	—	—	
美希病院線 **【水沢駅発着】**※2	水沢駅東口～ 美希病院		4	4	4	4	
美希病院線 **【前沢駅発着】**※2	前沢駅口～ 美希病院		3	3	3	3	
美山病院線※3	水沢駅東口～ 美山病院		4	4	2	2	

※1：土日祝運休
※2：　月曜運休
※3：　日祝運休

資料：岩手県交通 HP

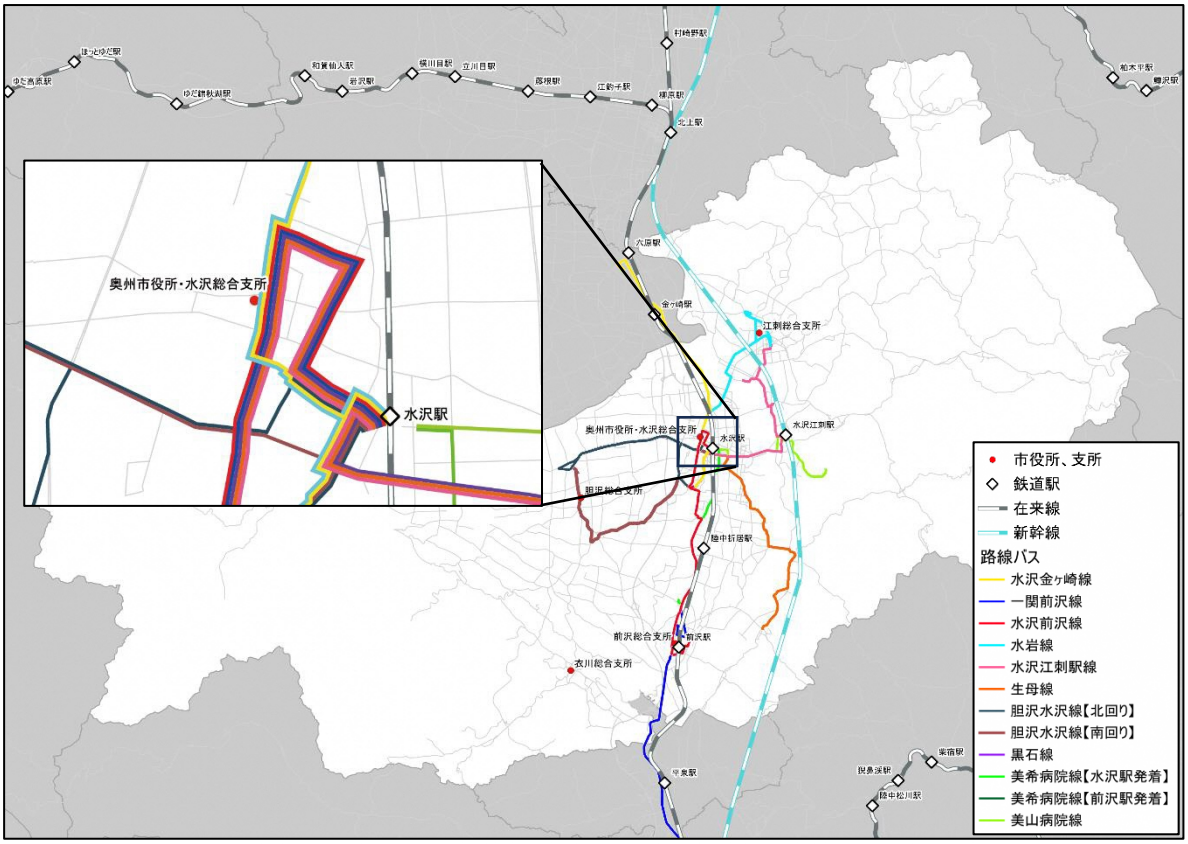


図 路線図（路線バス）

●路線バスの運行実績

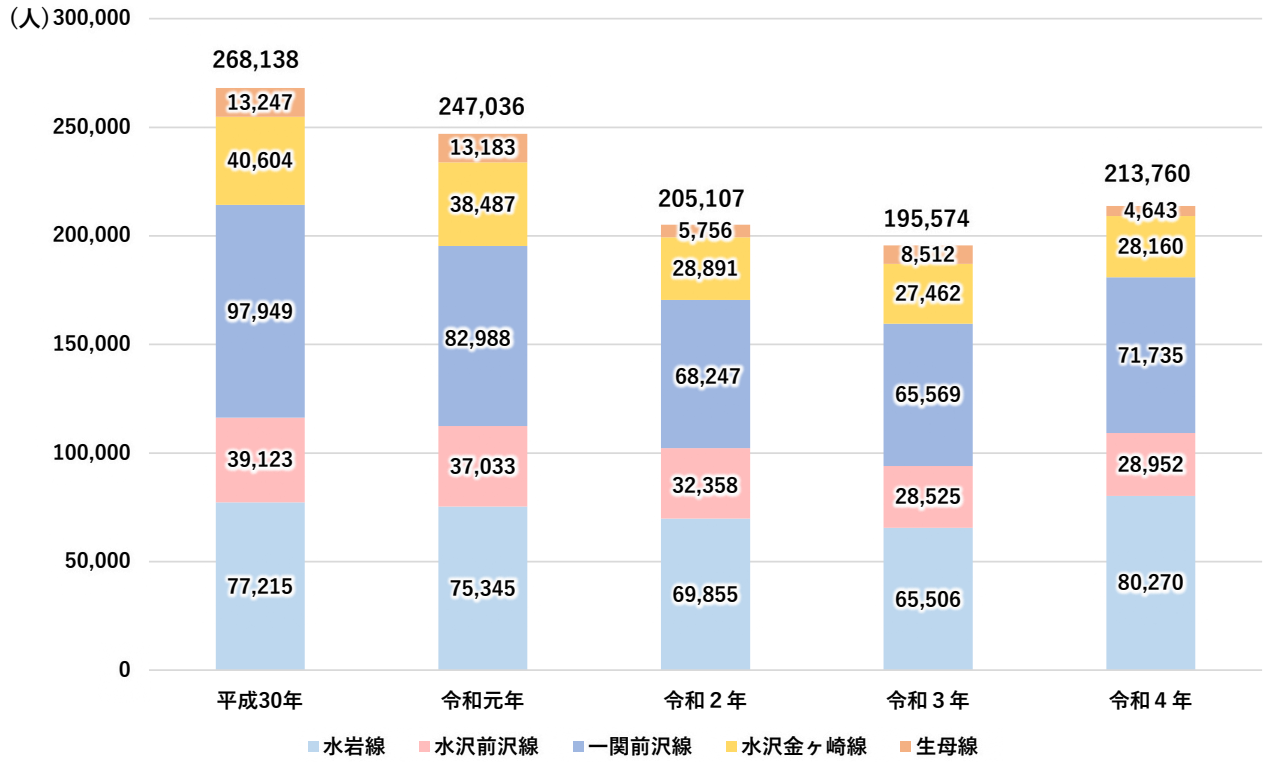


図　路線バスの年間利用者数の推移

3-2-4 奥州市営バス

○奥州市営バスの運行概要は以下のとおり。

表　奥州市営バスの運行概要

路線名	起点・終点	主な経由地	運行本数				運行主体
			平日		休日		
			上	下	上	下	
伊手藤里線※1	江刺バスセンター～伊手地区センター	江刺病院 イオンタウン江刺	4	5	—	—	奥州市
梁川線※1	江刺バスセンター～梁川地区センター	江刺病院 イオンタウン江刺	3	3	—	—	
米里重王堂線	江刺バスセンター～重王堂	江刺病院	4	3	2	2	
米里学間沢線	江刺バスセンター～学間沢	江刺病院	3	3	3※2	2※2	
広瀬稲瀬線※1	江刺バスセンター～広瀬	江刺病院 イオンタウン江刺 稲瀬地区センター	4	4	—	—	
田原線※1	江刺バスセンター～田原地区センター	江刺病院 イオンタウン江刺	3	2	—	—	
街なか循環線※1	江刺バスセンター～江刺バスセンター	江刺病院 イオンタウン江刺	3	3	—	—	

※1：土日祝運休
※2：　日祝運休
資料：奥州市 HP

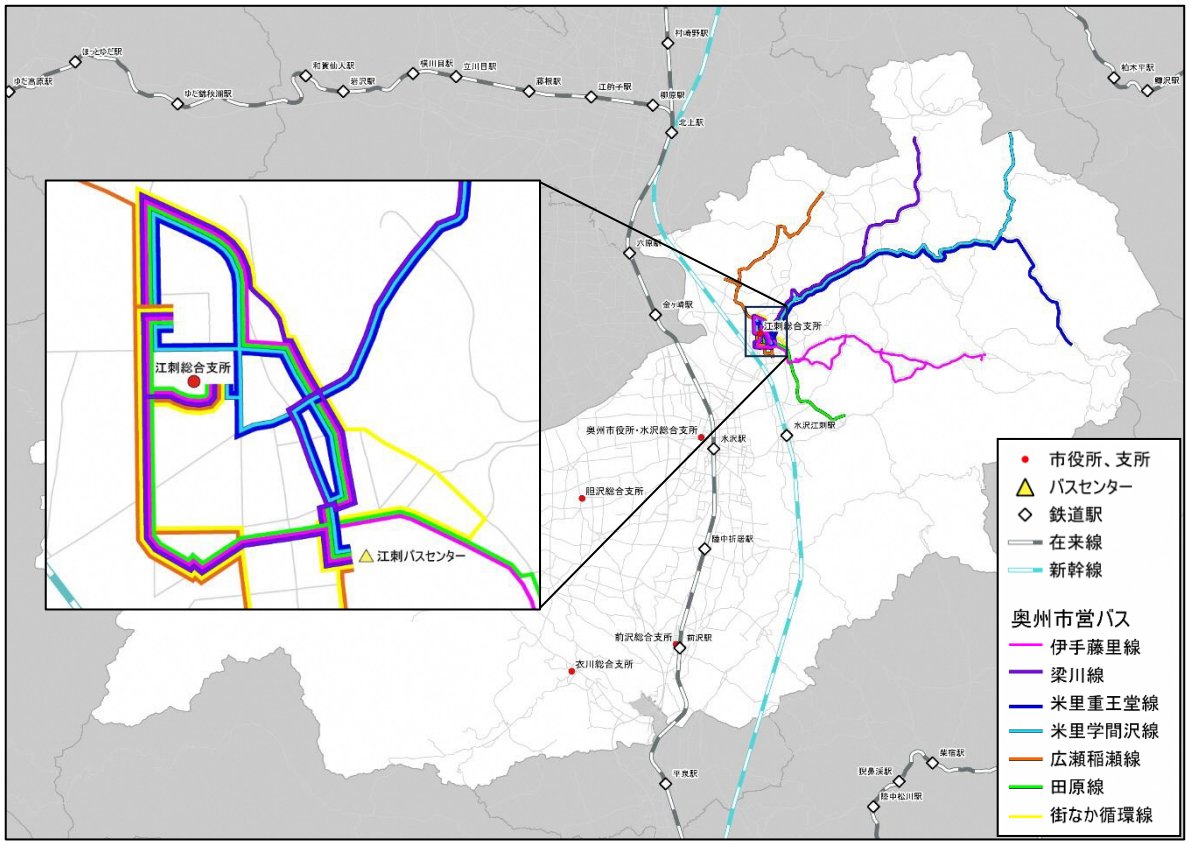


図 路線図（奥州市営バス）

●奥州市営バスの運行実績

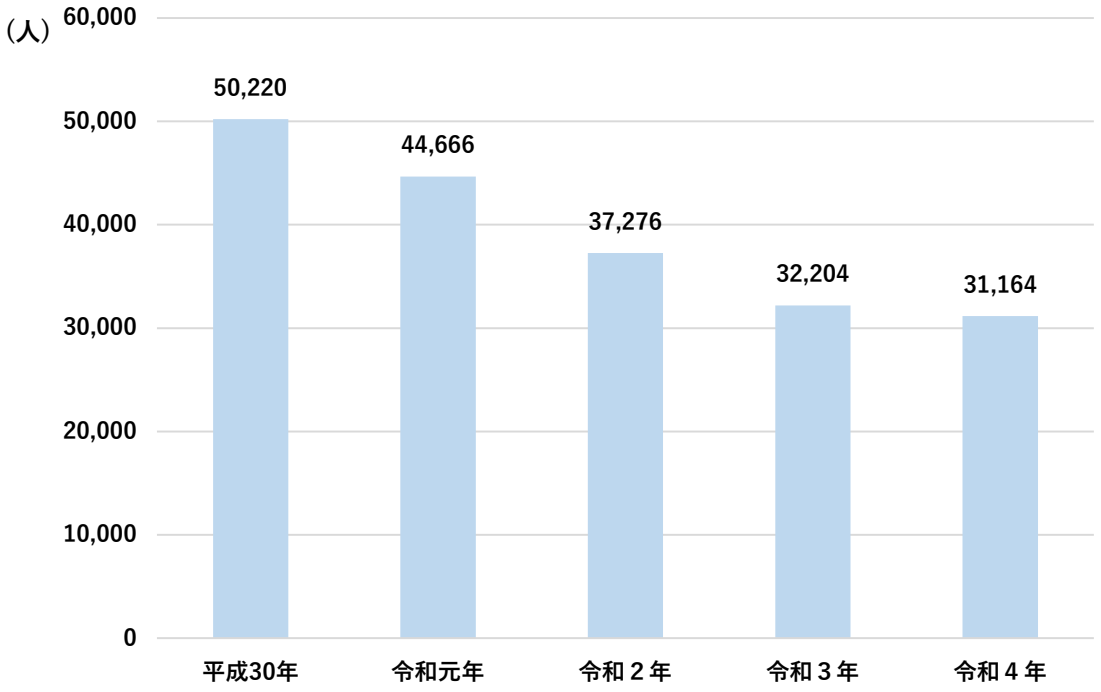


図 奥州市営バスの年間利用者数の推移

3-２-５Ｚバス（水沢コミュニティバス）

○Ｚバス（水沢コミュニティバス）の運行概要は以下のとおり。

表　Ｚバスの運行概要

路線名	起点・終点	主な経由地	運行日	運行本数				運行主体
				平日		休日		
				上	下	上	下	
佐倉河線	水沢病院～ 水沢病院	奥州市役所 水沢駅通り 水沢地区センター	月～土	4		4		岩手県交通 株式会社
羽田線	水沢病院～ 鵜ノ木	奥州市役所 水沢駅口 水沢江刺駅	毎日	4	4	4	4	
見分森線	水沢病院～ 見分森	奥州市役所 観光物産センター	平日	5※1	4※2	—	—	
南方線	水沢病院～ 生母	奥州市役所 Ｚホール 白山地区センター	月水金	4	3	—	—	

※1：1～3 便は火・木のみ運行
※2：3～4 便は火・木のみ運行
資料：奥州市 HP

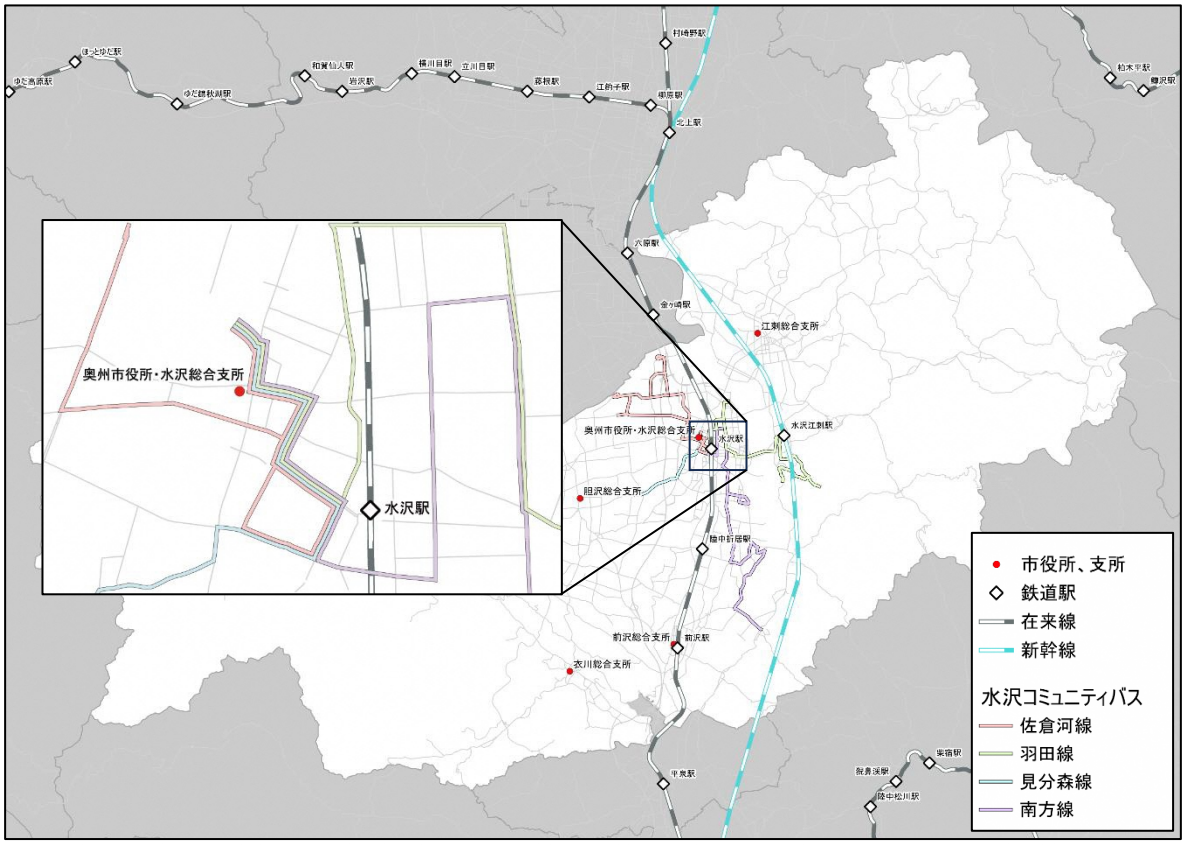


図 路線図（Z バス）

●Z バスの運行実績

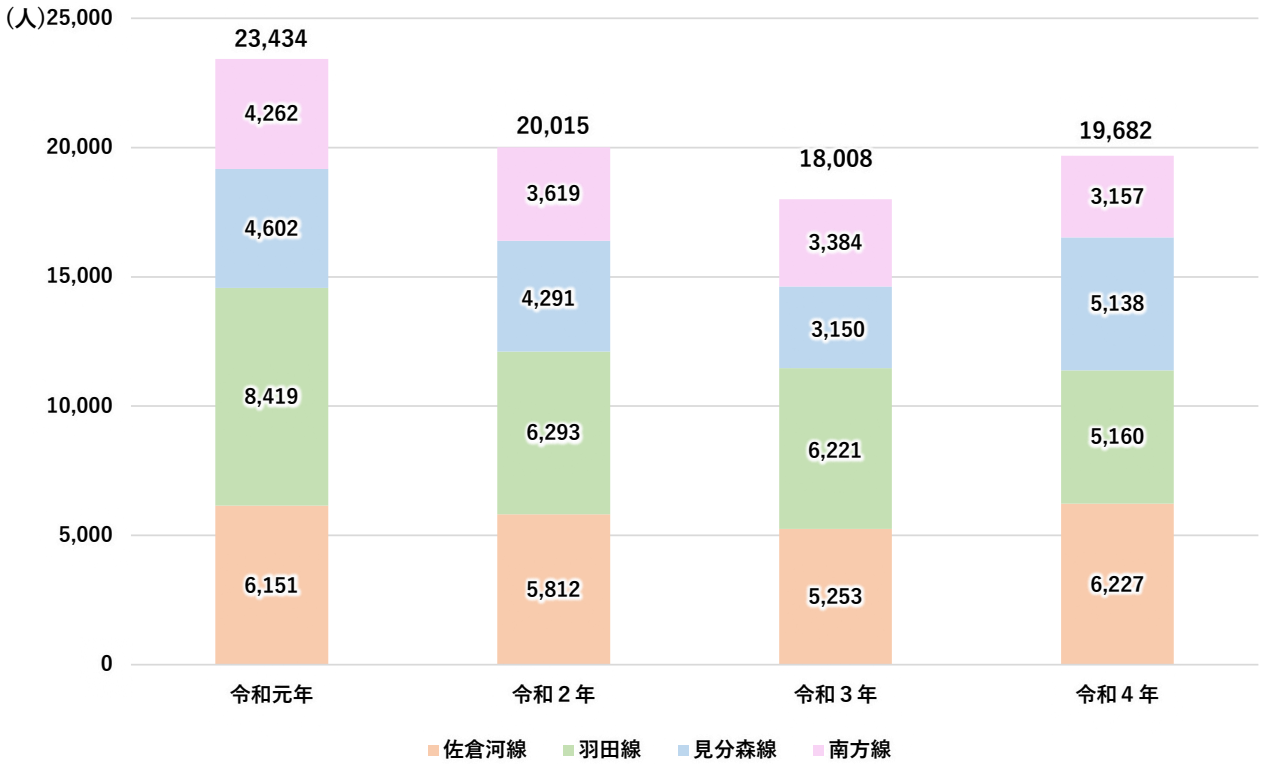


図 Z バスの年間利用者数の推移

3-2-6 衣川コミュニティバス

〇衣川コミュニティバスの運行概要は以下のとおり。

表　衣川コミュニティバスの運行概要

路線名	起点・終点	主な経由地	運行日	運行本数		運行主体
				上	下	
衣里線	イオン前沢～古都の遊食	アスティまえさわ 衣里小学校前	平日	3	4	胆江地区タクシー業協同組合
衣里線 長者ヶ原 廃寺跡前経由		アスティまえさわ 長者ヶ原廃寺跡前		2※	1	

※第 2 便は火・木・金のみ運行

資料：奥州市ＨＰ

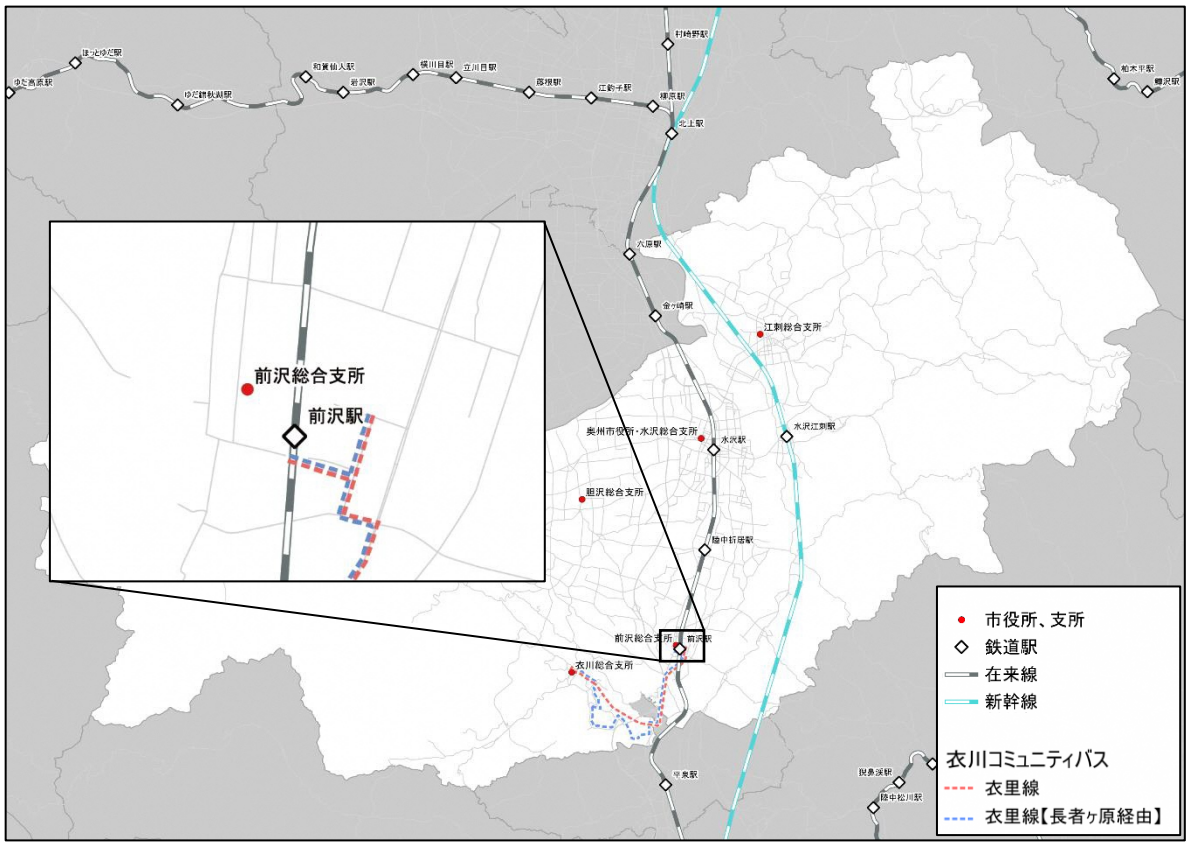
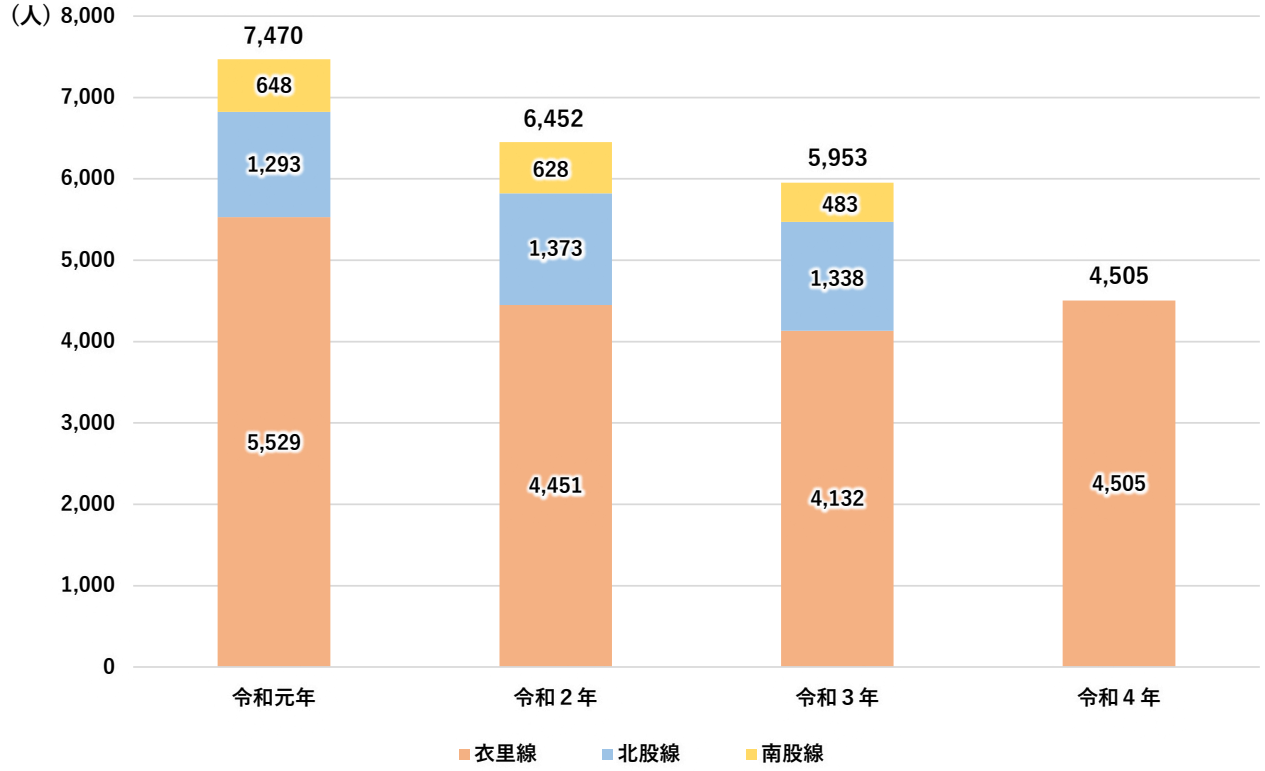


図 路線図（衣川コミュニティバス）

●衣川コミュニティバスの運行実績



※北股線・南股線は令和３年度に地区内交通の導入に伴い廃止

図 衣川コミュニティバスの年間利用者数の推移

3-２-７ハートバス

〇ハートバスの運行概要は以下のとおり。

表　ハートバスの運行概要

サービス名	運行地区	運行日	運行便数	運行主体
ハートバス	前沢地域	平日	11	奥州市社会福祉協議会

資料：奥州市 HP

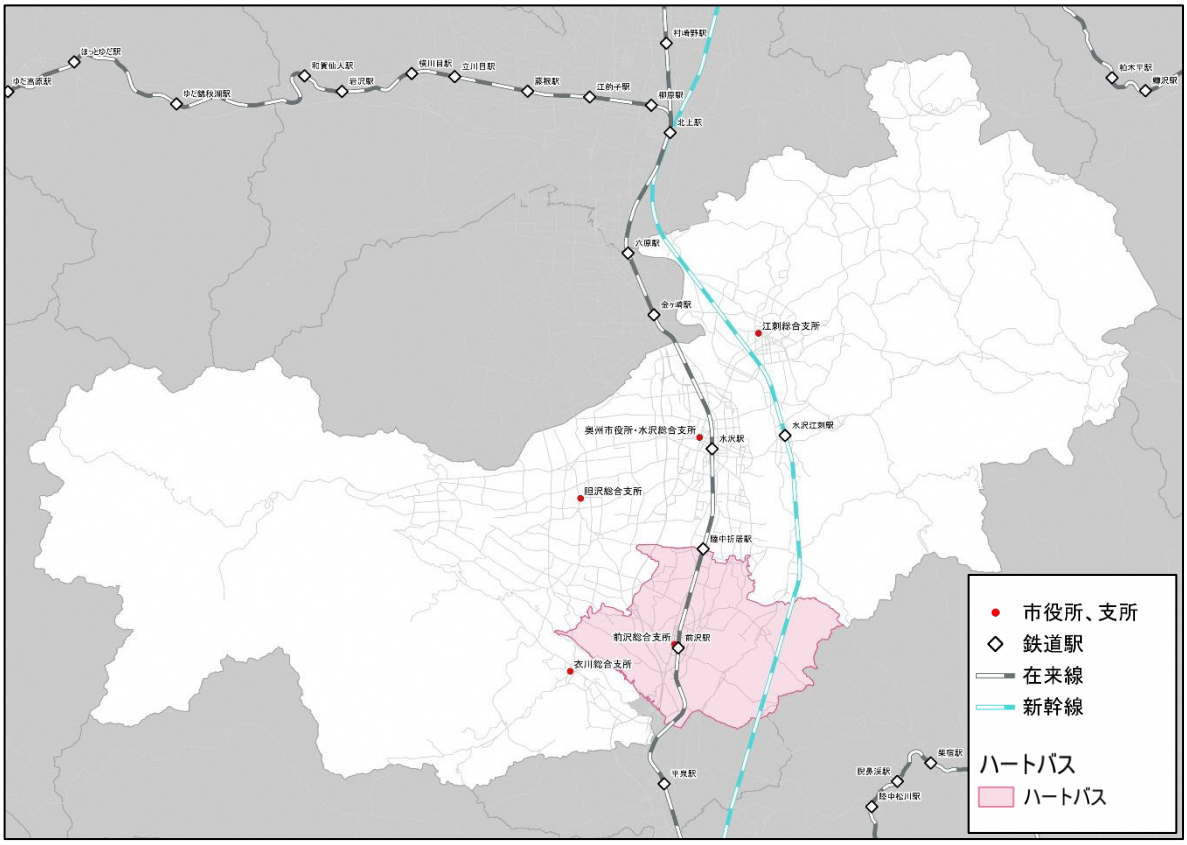


図 運行範囲（ハートバス）

●ハートバスの運行実績

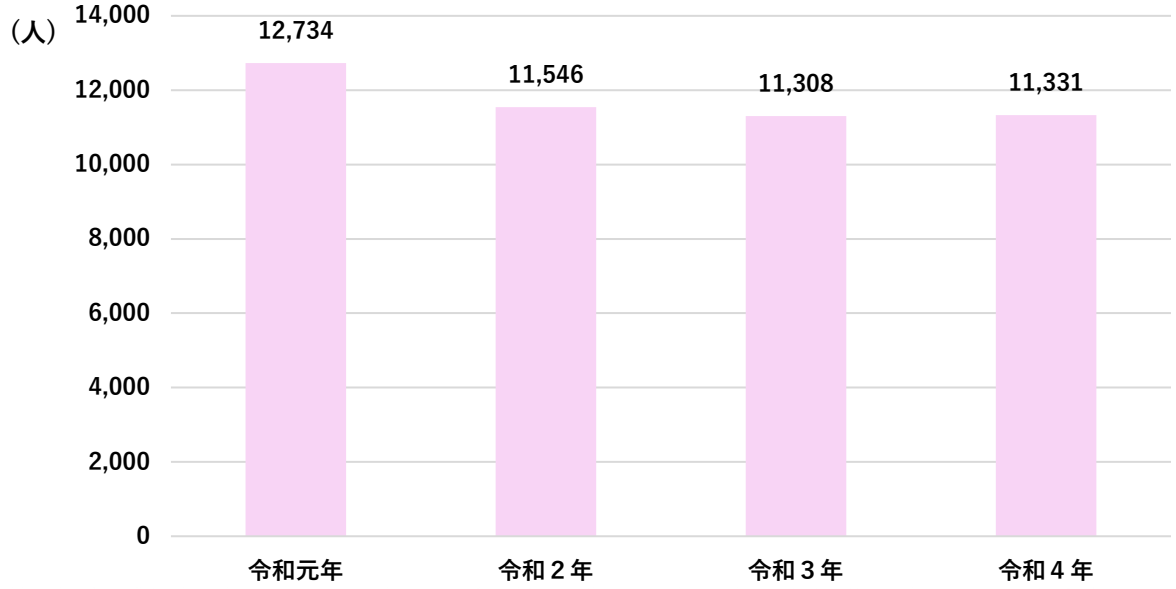


図 ハートバスの年間利用者数の推移

3-2-8 地区内交通（事前予約型交通）

○地区内交通の運行概要は以下のとおり。

表　地区内交通の運行概要

サービス名	運行地区	主な乗継拠点	運行日	運行便数	運行主体
くろタク	黒石地区	道の駅みずさわ	火・木・金	6	胆江地区タクシー業協同組合
ほうらい号	田原地区	水沢江刺駅 田原地区センター	月・火・木	6	
いで・ごー	伊手地区	伊手地区センター	月・火・金	6	伊手振興会
人首丸号	米里地区	米里バス停	火・木・金	6	米里の足を守る会
やなたっくん	梁川地区	梁川地区センター	月・火・金※	6	梁川地区内交通の会
やわた号	広瀬地区	日渡	月・水・金	6	広瀬地区内交通の会
稲瀬ふれあい号	稲瀬地区	稲瀬地区センター	月・火・ 水・金	6	稲瀬の足を守る会
胆沢ふれあい タクシー	小山地区	高橋バス停	月・水・金	6	胆江地区タクシー業協同組合
	南都田地区	南都田地区センター	月・火・金	6	
	若柳地区	まごころ病院	平日	6	
	胆沢愛宕地区	まごころ病院	平日	6	
さだとう号	北股・南股・ 衣川地区	古都の遊食	火・水・金	7	
	衣里地区	古都の遊食	火・水・金	7	

※第 1,2,4 週の木曜日には梁川地区移動診療日便が往復 1 便ずつ運行

資料：奥州市 HP

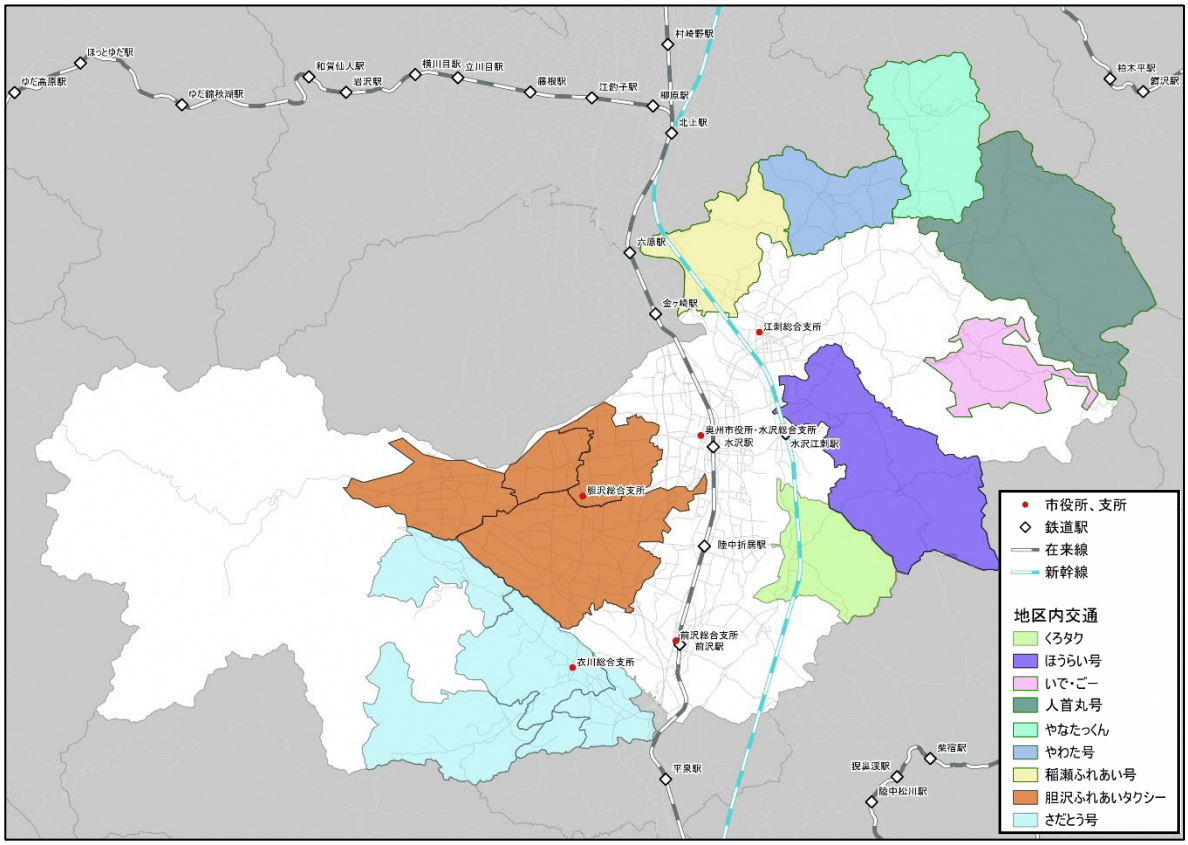
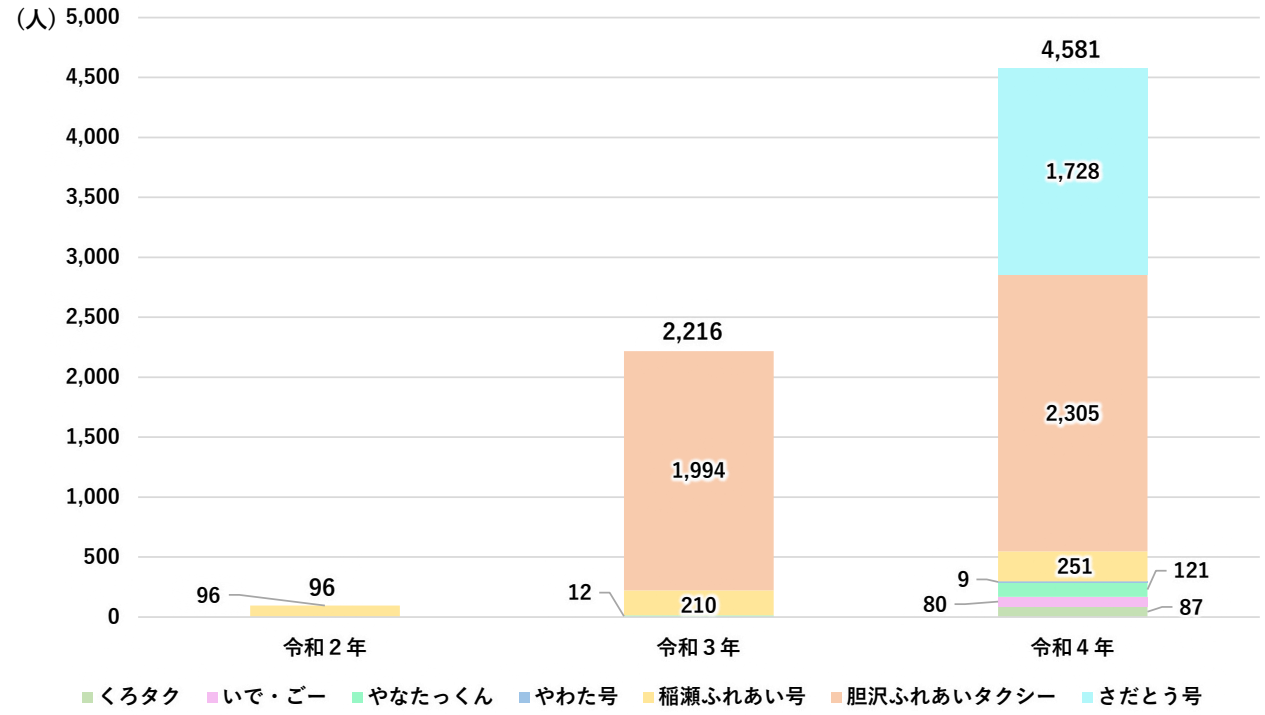


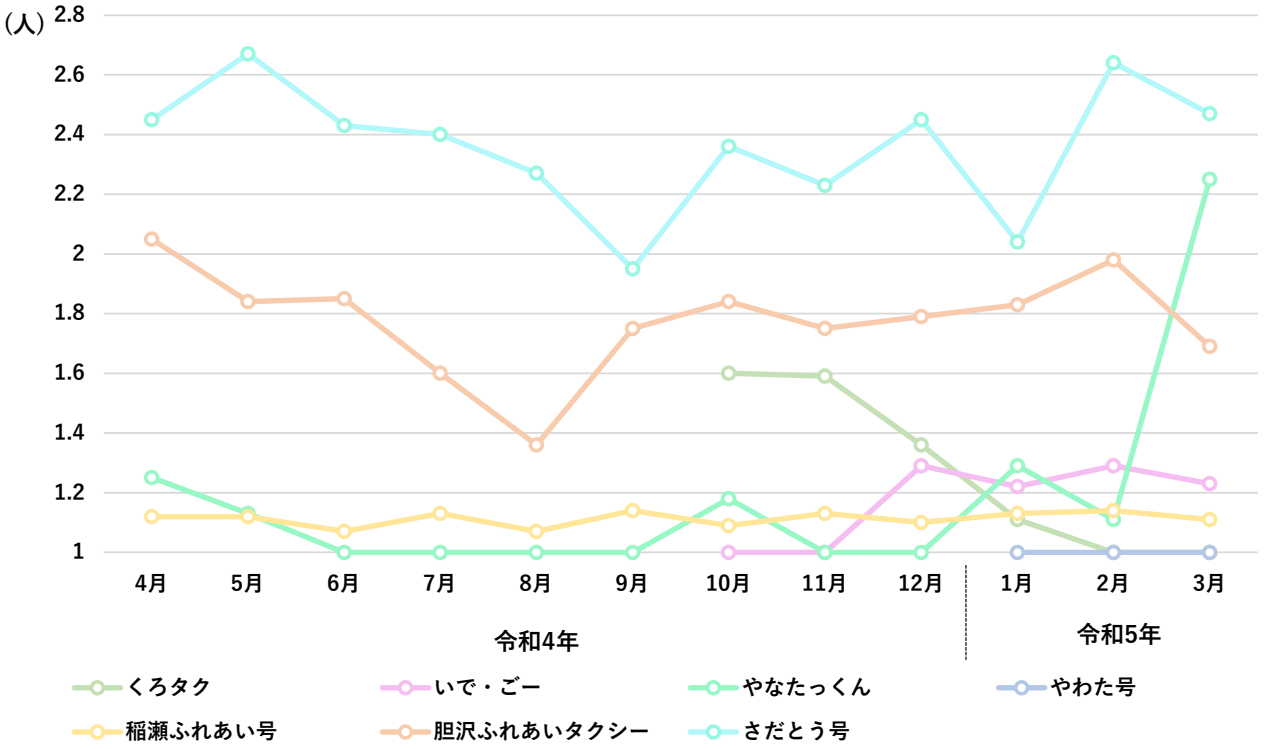
図 運行範囲（地区内交通）

●地区内交通の運行実績



※ほうらい号は令和５年４月から運行開始のため実績なし
※人首丸号は令和５年 10 月から運行開始のため実績なし

図 地区内交通の利用者数の推移



※ほうらい号は令和５年４月から運行開始のため実績なし
※人首丸号は令和５年 10 月から運行開始のため実績なし

図 令和４年度の１便あたりの利用者数（乗合率）

3-2-9 公共交通以外の移動サービス

①一般タクシー

〇市内で営業するタクシー事業者は以下のとおり。

表　市内を運行するタクシー事業者一覧

事業者名	住所
(株)北都交通	奥州市水沢三本木 4-42
(株)水沢タクシー	奥州市水沢東大通り 2-3-30
(株)江刺タクシー	奥州市江刺中町 9－13
(株)前沢タクシー	奥州市前沢字七日町裏 13－1
(有)奥州いさわタクシー	奥州市胆沢南都田字本木 164－1
(有)衣川タクシー	奥州市衣川古戸 415－6

資料：各タクシー事業者 HP

②スクールバス

〇市内のスクールバスの運行概要は以下のとおり。

〇令和 5 年度におけるスクールバスの運行経費は約 1.75 億円となっている。

表　市内で運行するスクールバスの運行概要

地域	学校	路線数	1 日の運行回数		運行経費（令和 5 年度）
			登校	下校	
水沢	**水沢南中学校**	2 路線	2 回	2 回	6,456,780 円
江刺	**岩谷堂小学校**	2 路線	2 回	4 回	80,786,612 円
	田原小学校	1 路線	0 回	2 回	
	江刺ひがし小学校	4 路線	4 回	6 回	
	稲瀬小学校	1 路線	0 回	2 回	
	江刺第一中学校	9 路線	9 回	9 回	
前沢	**前沢小学校**	8 路線	11 回	16 回	31,454,500 円
	前沢中学校	2 路線	0 回	2 回	
胆沢	**胆沢第一小学校**	7 路線	7 回	12 回	33,367,017 円
	胆沢愛宕小学校	1 路線	1 回	2 回	
	胆沢中学校	3 路線	3 回	3 回	
衣川	**衣川小学校**	5 路線	5 回	10 回	22,700,180 円
	衣川中学校	1 路線	1 回	1 回	

3-２-１０市の財政負担

〇公共交通に係る市の財政負担額は以下のとおり。

〇公共交通全体に係る市の財政負担額は約 2.28 億円となっている。

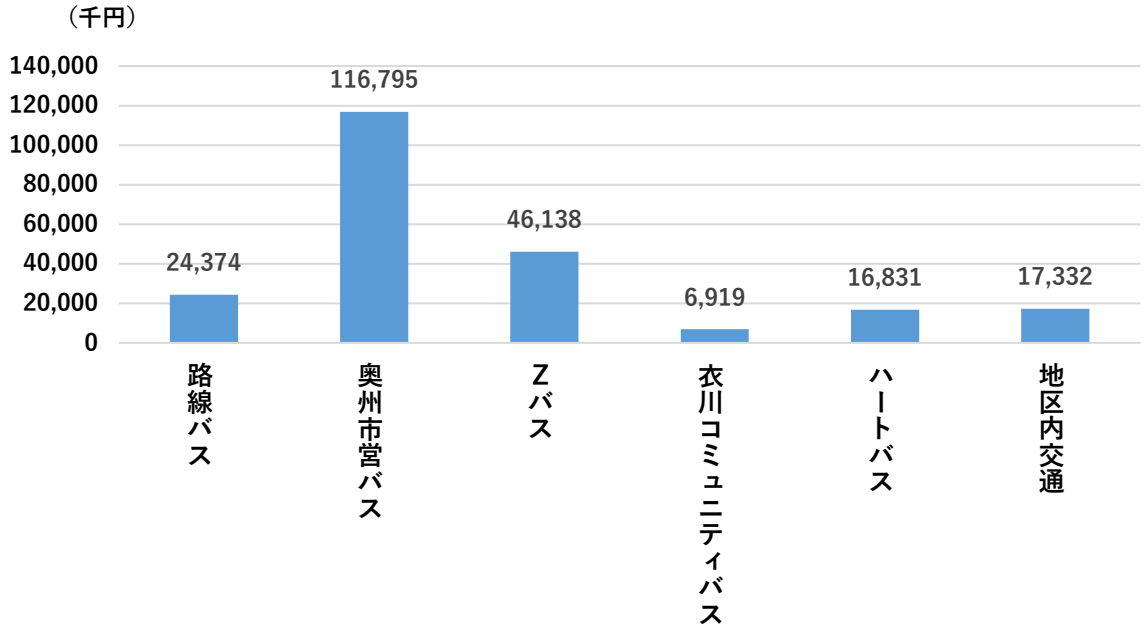


図　公共交通に係る市の財政負担額(令和４年度)